

12-11 サブ・プロジェクトのインパクトに関する

インタビュー結果 概要

インタビュー結果の概要

【サブ・プロジェクトに関するインパクト調査報告書 1997年5月】

共著：

田中山美子（ジェンダーと開発分野短期派遣専門家）

池田恵子（開発と女性分野長期派遣専門家）

上記報告書の各指標項目毎のインタビュー調査結果とりまとめのより、一部抜粋した。

1) 村落開発に対する意識の変化

a) 村落開発・問題解決能力に対する意識の変化

大方の住民が住民主体による事業の進め方を肯定的に捉えており、いままではなおざりにされていた問題も、その解決のために前向きに検討しようという態度が形成されつつある。また、資金さえあれば、技術的には開発事業を実行できるという自信もついたようである。

女性・貧困層は労働時間が長く、事業に参加する余裕が少ないため、無償労働を提供することへの全面的理解が得られず、今後の課題であろう。

b) VDC、援助機関、NGO等に対する意識の変化

M/Pチームはよく村によく来ると認識されており、信頼を得ている。またM/Pチームは包括的・クロスセクターに村落開発を支援していることが理解され、そのアプローチは住民に支持されている。

c) 女性に対する意識の変化

ユーザー委員会への女性参加は概ね肯定的に捉えられており、女性も開発事業について学習する機会を得ることができた。識字教室等の女性の参加も概して男性は協力的である。一方、男性の一部には女性に対する偏見が残っており、女性も事業の責任を負うことに抵抗を示す場合がある。今後は男性が、女性の開発参加の意義について理解するよう啓蒙普及活動をする必要がある。

d) 職業カースト・貧困層に対する意識の変化

日常生活では差別が現存しているものの、開発事業では比較的カースト差別が少なく、

異なるジャートが共に労働参加している。

今後の課題はユーザーグループ形成段階で、委員会メンバーのジャート比率を考慮する必要がある。

2) 環境保全に対する意識の変化

a) 森林資源の減少と生活・生産の関係に関する理解の変化

住民は森林資源と生活の関係について大まかな知識を持っていることがわかった。

b) 資源増加、または減少緩和のための知識・技術を理解しているか

保全のための具体的技術や方策が十分普及してない。

c) 資源増加、または減少緩和のために何らかの活動をしているか

森林保護（枯れた木のみを切る、除草する、見張りをおく等）は大半の集落で行われているものの、自発的な植林は行われていない。一部、M/Pチーム主導により植林は行われている。M/Pチームの今後の啓蒙普及が重要となる。

3) 生活の質の向上

a) 利便性の向上

基盤整備事業では、便益が得られたものと、水利権問題等により便益が得られなかったものがある。技術面で便益が得られなかったものはない。識字教室や改良かまどの導入により、家事労働の軽減、時間短縮等成果があった。今後、水利権等の問題については、社会文化要因を重視し、地域有力者にも協力を求める。

b) 労働時間・量の変化

収入向上事業では労働時間・量が大幅に増えた事業があるが、改良かまどの導入は女性の労働時間短縮に結びついた。

c) 収入の変化

これから生産物を販売する段階であり、不明。

(*その後の報告により、一部利益が出たグループがあるとのことである。)

4) 家庭内・村落内での資源・機会へのアクセスと分配の改善 (短期的)

- a) 女性、職カ、貧困層は事業成果を正当に利用し、維持管理に発言権を有するか
大半の事業で性別・カースト別に関わりなく公平に利用されている。
- d) 家庭内において、事業による収入管理・使途決定権は誰か
女性の収入向上による収益は女性が管理する意志があり、また実際に管理している。

5) 住民主体によるニーズの特定

- a) ニーズの特定と優先順位付けのミーティングへの参加
ニーズ特定の集会では女性、職カの参加度は高かった。収入向上事業では、女性のみの参加がほとんどであり、男性の参加も促す必要がある。
- b) ニーズの特定と優先順位付けがどのように行われたか
住民は公共の利益と村落で入手できる資機材の利用可能性を判断し、ニーズを特定、話し合いで優先順位を付けることができる。職カや女性もニーズを表明できる。ただし、職カにニーズは後回しにされることも多い。
女性は一部グループを形成しニーズを出すことができるようになり、またニーズを事業に結びつけることを学習した。
職カに公共の利益がもたらされるよう配慮し、引き続き職カの参加を促す必要がある。
- c) ユーザーグループの選定はどのように行われたか
不当に排除された住民はいない。これまでの事業の成果を見て、新たにユーザー参加を希望する住民がいる。

6) 住民主体の村落振興・資源保全事業の計画・実施手法の形成と定着

- a) ユーザー委員会設置
その重要性は理解された。女性を委員会メンバーにすることも、ほぼ受け入れられた。ただし、女性が委員の役割を果たせるか否かについては意見が分かれている。
- b) ユーザー委員会の活動
住民には内部規則を決めて、それを実行する能力がある。事業によっては基金も集め、管理する能力も形成されつつある。

c) ユーザー委員会での決定における委員の役割とリーダーシップの有無

委員会としてのリーダーシップ事業実施能力はあり、最後まで事業を達成する意志もある。男女混合の委員会では女性が発言権がない場合があるので、能力が十分発揮されているわけではない。議論方法の形成についても支援する必要がある。

d) ユーザー委員会による事業予算の分配方法とファンドの有無

労働参加の内容に応じて、適正な予算管理能力が形成され、また維持管理・補修のための基金を設置し、管理することができる。

維持管理のための基金は十分な額とならないことが多いが、基金設置の際にはその意義の理解促進を強化する必要がある。

e) 将来、類似事業を行う場合の計画実行・組織運営手法が形成されたか

技能的事業実施能力が形成され、住民主体となって計画・実行する自信が着いた。規則もつくりそれに沿って実行できる。

しかし、実行に足る資金調達が困難な場合が多く、調達能力を高めるよう工夫する必要がある。また個々の事業では問題解決能力や、関連情報収集能力を高める必要がある。

7) 村落で入手可能な資源の活用と労働参加（住民負担は適切であったか）

a) 村落で入手可能な資機材は最大限に活用されたか

村落で入手可能な資機材は最大限に活用され、また資機材が入手できるか、実際に活用することが可能か等について実際に判断することができる。

b) 事業実施中および終了後に、事業参加のためにかかった時間

性別、カーストに関わらず、自分たちで決めた規則に従い、よく参加した。オーナーシップの意識が形成され、自主的参加が得られた。

低位カーストの参加時間が長く、男女の賃金格差等の問題があり、格差縮小を働きかける必要がある。

c) 労働参加した住民に実際に支払われた賃金の分配方法

熟練者に対してだけ賃金を払った事業を非熟練者にも賃金を分配した事業がある。女性が報酬を受けると、労働価値の確認となり参加のインセンティブとなった。

8) 生産・建設・改修などに関する既存の技術・知識の活用と新しい技術・知識の普及

a) トレーニング・事業過程で住民の既存知識・技術は最大限に利用されたか

植林事業では、生活に役立つ樹種を的確に指摘できるなど、事業に活用されている。

b) トレーニング・事業過程で習得した新しい知識・技術は適切であったか

必要なトレーニングが実施され、その内容は技術的に容易に習得可能である。スタディーツアーは新しい知識・技術にふれる手段として有効である。

トレーニングは、今後は農繁期をさけての実施を徹底し、後で習得した内容がアレンジできるよう工夫する。

c) トレーニング・事業過程で習得した技術・知識を実際に活用または他住民に普及したか

他住民に普及したもの、しなかったものがある。日常の農作業からかけ離れた技術は普及しにくい。普及パターンをモニターし、トレーニング手法に反映させる工夫が必要である。

9) 運営、維持管理、評価に関する既存の技術・知識の活用と新しい技術・知識の普及

a) 維持管理・補修のための組織的・制度的資金の方策の有無、内容

小規模な破損であれば、主体的に修理する技能と実行力が形成され、維持管理基金の必要性が認識され、大半の事業で設置・管理されている。

今後、大規模破損のための情報、資源のアクセスを確立する必要がある。

b) 維持管理の組織的・制度的・資金的問題発生の有無、および実際の対応

切実なニーズに基づくものはユーザー委員が修理計画を立て、ユーザー全体で修理している。またユーザー費用負担の妥当性が理解され、手法が形成されつつある。

水利権、土地所有権等の社会文化的問題の解決能力の向上、特に複数コミュニティにまたがる問題の調整を支援する必要がある。

c) 維持管理の技術的問題発生の有無、および実際になされた対応

事業実施後、破損したり植林地の柵が壊れるなどの問題は生じているが、その都度、住民が必要な修理作業を行う技能と実行力は形成されたが、大規模破損に備え、必要情報、資源にアクセスできるよう政府関係機関などとの連携を強化する。

d) 生産・運営手法をとくに理解した住民の有無

住民の技能的な事業実施能力が形成され、主体となって事業の計画実行を行う自信がついている。

しかし、事業実施資金の調達が困難となる場合が多く、計画段階で基金を設置するよう勧めていく。また問題解決能力向上のため、情報、資源へのアクセスを強化する必要がある。トレーニングには政府関係機関をできる限り関与させ、連携強化する必要がある。

e) マーケティング・販売の確保、収益計算ができる住民の有無

収入向上事業は生産物を販売して収益を得た事業は少なく、販売手法が確立されていない。また同事業のユーザーは大半が女性であり、収益計算ができるユーザーが少ない。

販売方法の確立が緊急課題であり、マーケティングの情報収集を行う必要がある。また、収益計算・管理ができるよう、識字教室とのタイアップを図る。

10) 専門的サービスへのアクセス

a) 事業関連政府機関やNGOの有無

土壌保全事務所、農業事務所、畜産事務所を含め、郡レベルの政府関係機関との連携を築きながら事業は進められている。

事業種の拡大にともない、各政府機関との関係強化をさらに進める。また地域で活動するNGOとプロジェクトとの協力体制も強化する。

b) 事業関連政府機関やNGOの役割を住民が理解しているか

関係機関から得られる支援の基本的知識は持っているが、具体的な支援取り付け方法に関する知識が普及していない。

トレーニング等に関係機関をより多く活用し、その後の連携を維持する。また関係機関情報を普及させる必要がある。

c) 関連政府機関やNGOから技術的サポートを受けた住民の有無と内容

M/Pチームがアレンジした場合は関係機関から技術的指導を受けたが、実際の実施や問題解決のために自主的に政府関係機関から支援を得ようと試みたケースはない。

12-12 「緑の推進協力」・

「村落振興・森林保全計画」に関わるPDM（案）

Project Design Matrix

「ネパール村落振興・森林保全計画」および「ネパール緑の推進協力計画」に関わるPDM (改訂案)

1996/06/18

プロジェクトの要約	指標	指標データ入手手段	外部条件
<p>【上位目標】 ネパール山間部の村落資源（森林資源、人的資源を含む）の開発と保全を通じ、自然環境の向上を図る。</p> <p>(下線部は加筆改訂)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネパール山間部の森林資源の減少の緩和 2. ネパール山間部の新たな植林面積の増加 3. ネパール山間部の人々のエンパワーメント向上 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネパール山間部の政府の森林関連統計 2. ネパール山間部における学術的な住民調査を日本およびネパールの大学・研究所に共同委託。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネパール政府が住民参加型の林業政策の変更をしない。 2. ネパールの政治、経済、社会状況が極端に悪化しない。
<p>【プロジェクト目標】 カスキ、バルパット郡の山間部において、住民の主体的なイニシアティブと努力による村落の生活水準向上のための、女性と貧困に配慮したモデル村落振興事業の展開を通じ、自然環境と土地生産力の向上、特に森林その他自然資源の減少緩和、森林地域の拡大を図る。</p> <p>(R/Dの記述通り)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. カスキ、バルパット郡における森林資源の減少緩和 2. カスキ、バルパット郡における新たな森林面積の増加 3. カスキ、バルパット郡における女性および貧困層の生活の向上およびエンパワーメントの達成 4. モデル的な住民参加型の村落振興事業の増加 	<ol style="list-style-type: none"> 1. カスキ、バルパット郡のプロジェクト対象地域に関する森林関連統計(1994-99年の変化) 2. カスキ、バルパット郡のプロジェクト対象地域における、女性と貧困層を含むプロジェクトのインパクト調査、およびJICA 開発調査の社会経済ベースライン調査に基づいて変化の度合いを測るサンプル調査(1994-99年の変化) 3. カスキ、バルパット郡における村落事業の実施に関わる実態調査(1994-99年の変化) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. カスキ、バルパット郡における政治、経済、社会、自然状況が極端に悪化しない。 2. 森林土壌保全局、カスキ、バルパット郡事務所の協力が継続される。 3. ネパール政府が新しく開発されたモデルを評価し、他の山間地域にも普及する努力を継続する。
<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カスキ、バルパット郡における住民(男女)の主体的な村落振興活動を通じて、森林および村落資源保全のためのモデルが確立され、森林・村落振興事業が活性化される。 2. ネパールの他の山間部地域にも適用しうる森林および村落資源保全のための手法が開発される。その住民参加型手法がプロジェクト対象地域以外にも普及し、政府およびNGOが自立発展的に森林・村落資源保全活動を展開する。 3. 森林および村落資源保全の手法と技術がネパール政府職員及び現地NGOに移転される。 <p>(下線部は加筆改訂。「緑の推進協力計画」のM/Mに記載されている「目的」および「技術協力の範囲」は、上記に含まれていると解釈する。)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. オペレーショナル・ガイドラインの作成・改善およびそれに沿ったモデルとなるサブプロジェクト実施数の増加とその質的向上(1994-99年)(詳細な定量的・定性的指標は別途開発する) 2. ネパールの他の山間部地域において、本プロジェクトで開発された森林・村落資源保全のための住民参加型調査手法を採用したプロジェクト数の増加(1999年以降) 3. 訓練、セミナー、ワークショップの実施数およびその質の向上(1994-99年) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. M/Pチーム月例報告書、専門家四半期・総合報告書、各種プロジェクト報告書、および定量的・定性的指標に基づくサブプロジェクトの調査報告書 2. フォローアップ調査(1999年以降) 3. M/Pチーム月例報告書、専門家四半期・総合報告書、NGO年間活動報告書、各種プロジェクト報告書 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な社会経済階層の村落住民(男女)が「村落振興・森林保全計画」「緑の推進協力計画」の主旨を理解し、参加する。
<p>【活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <ol style="list-style-type: none"> 1) 住民ニーズ把握のガイドライン作成 2) ガイドラインに沿った調査手法の確立と適用 3) 住民ニーズに基づく村落振興計画の作成・実施の支援 4) 村落振興に必要な投入についての検討 5) 投入検討結果に基づく機械材の投入の実施 6) 村落振興に関連した適切な技術の開発と適用 7) 村落振興事業実施後のモニター手法の開発と適用 8) 村落振興事業の評価手法の開発と適用 9) 関連する機関やグループとの密接な連携 2. <ol style="list-style-type: none"> 1) カスキ、バルパット郡のモデル形成から、村落振興のポイントを抽出する。 2) 上記ポイントを活用した他の地域にも適用可能な村落振興手法を開発する。 3) カスキ、バルパット郡のモデル形成に適用された手法の効果を検証する。 3. <ol style="list-style-type: none"> 1) 多様な段階での訓練を通じ、C/Pの技術能力を高める。 2) フィールドレベルのセミナー、ワークショップ、訓練などを通じ、C/Pの技術能力を高める。 <p>(R/Dの記述通り。「緑の推進協力計画」のM/Mに含まれている「活動」は、上記に含まれているものと解釈する。)</p>	<p>【投入：インプット】</p> <p>ネパール政府側</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトディレクター(土壌保全局長) 1名×5年 2. プロジェクトマネージャー(カスキ、バルパット郡土壌保全事務所長) 2名×5年 3. 土壌保全局職員(約213名) 4. プロジェクト事務所の土地の提供 5. ローカルコスト <p>NGO側</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ディレクター 1名×5年 2. 職員 15名×5年 <p>日本側</p> <p>JICA</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家 4名×5年 2. 短期専門家 数名×5年 3. 予算負担 <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般現地業務費 2) 寄附普及活動費(NGO委託費を含む) 3) 造林対策費 4) プロジェクト基金整備費 5) 技術交換費 6) LLDC特別現地業務費 4. 機材供与 5. 研修員受け入れ <p>JOCV</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. JOCVリーダー 1名×5年 2. JOCV職員 10名×5年 3. 予算負担 <ol style="list-style-type: none"> 1) JOCV現地業務費 2) JOCV特別機材費(NGO委託費を含む) 4. 機材供与 5. 研修員受け入れ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政府およびNGOカウンターパートが一定の期間定着する。 2. 地方政府(DDC, VDC, CDOなど)の協力が得られる。 <p>【前提条件】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「村落振興・森林保全計画」「緑の推進協力計画」に対して日本政府が当初のコミットメントと支援を継続させる。 2. ネパール政府が当初のコミットメントと支援を継続させる。 3. 村落住民がプロジェクトおよびM/Pチームを受け入れる。 	

12-13 評価5項目の定義

<p>評価5項目 (Five Evaluation Issues)</p>	<p>経済開発協力機構（OECD）の開発援助委員会（DAC）において推奨された評価の観点で、JPCMシステムでは以下の様に訳されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. Effectiveness -- 目標達成度 2. Impact -- 効果 3. Efficiency -- 効率性 4. Rationale -- 当初計画の妥当性 5. Sustainability -- 自立発展性
<p>目標達成度 (Effectiveness)</p>	<p>プロジェクトの「成果」によって得られる「プロジェクト目標」の達成度合い。</p>
<p>効果 (Impact)</p>	<p>プロジェクトが実施されたことにより生じる直接的、間接的なプラス、マイナスの結果。これには計画当初に予想されていない結果も含む。</p>
<p>実施の効率性 (Efficiency)</p>	<p>プロジェクトの「投入」から生み出される「成果」の程度を把握し、手段、方法、期間、費用等の適切度を検討すること。</p>
<p>計画の妥当性 (Rationale)</p>	<p>第1に設定されたプロジェクトの目標が評価を実施する時点においても有効であるか否か。 第2にプロジェクトの構成要素（活動・成果—プロジェクト目標・上位目標）の関係の設定が相手国の事情に則したものであるか否か。</p>
<p>自立発展性 (Sustainability)</p>	<p>被援助国からの投入が終了した後も、援助プロジェクトによって達成された成果や開発効果が持続的に拡大再生産されているか否か。またプロジェクトによって強化された実施機関が運営管理面、財務面、その他の諸側面から自立しているか否か。</p>

評価時点ごとの評価5項目の観点の比較

評価項目	中間評価	終了時評価	事後評価
目標達成度	評価時点における「成果」の達成状況を把握し、「プロジェクト目標」達成の見込みを中心に評価する。	協力終了6か月前の段階で、協力終了時に「プロジェクト目標」の達成が可能かどうかについて、より具体的な見通し、また達成不可能な場合は、なぜ達成されないのかを中心に評価する。	協力プロジェクト終了後「プロジェクト目標」が、相手国側の自主運営に移ったのちにどう達成されたかを確認する。未達成の場合は、その後の達成状況の把握、なぜ達成されなかったのかの分析を中心に評価する。
効果	(特に見る必要はないが、すでに何らかの効果が認められる場合は評価結果に含む)	協力が進行中の段階であるので、効果の発現は部分的であるが、主に直接的効果（プラス、マイナス両面の）を中心に評価する。	協力プロジェクトの実施により、どのようなプラス、マイナスの直接的、間接的効果が発現したかを評価する。
実施の効率性	評価時点において達成されている成果に対し投入の計画性・タイミング等を評価する。	評価時点において達成されている成果に対し投入の計画性・タイミング等を評価する。	評価時点までのフォローアップ、アフターケア等の追加投入を含めた投入全体をその計画性・タイミング等から評価する。
計画の妥当性	評価時点においてもプロジェクトの計画内容が妥当であるか、の観点から評価する。	評価時点においてもプロジェクトの計画内容が妥当であるか、の観点から評価する。	評価時点においてもプロジェクトの計画内容が妥当であるか、の観点から評価する。
自立発展性	評価時点において、自立発展に必要な要素を見極めつつ、自立発展の見通しを中心に評価する。	評価時点において、自立発展に必要な要素を見極めつつ、自立発展の見通しを中心に評価する。 協力を終了してよいかどうかを判断する上で極めて重要な観点である。	協力終了後、予想どおり自立発展しているかどうかの分析を中心に評価する。 自立発展が不十分な場合、アフターケア協力の必要性を判断する上で重要な観点である。

評価 5 項目

1. 実施の効率性 (Efficiency)

プロジェクトの「投入」から生み出される「成果」の程度を把握し、手段・方法・期間・費用の適切度を検討する。

プロジェクトが効率的に行われているかどうかは、「投入」から「成果」にいたる過程の妥当性をとらえることで見ることができる。技術協力の場合、成果を金銭的なベネフィットといった価値基準でとらえることが困難なケースが多いため、多くの場合は達成された「成果」の適切度や投入のタイミングあるいは活動内容の計画性等の観点から検討する。また、類似プロジェクト同士を比較検討し、「投入」と「成果」の関係の妥当性を見ることも可能である。成果を価格による便益として客観的にとらえることが可能な場合は、費用便益分析等により、その妥当性を検討することができる。

具体的な観点：

- － 「成果」ほどの程度達成されたか。
- － 達成された「成果」は「投入」の規模を正当化するに足るものであるか。
その費用便益あるいは費用効果の妥当性はあるか。
- － 「投入」の規模は質・量ともに適正であったか。
- － 「成果」は計画された時間通りに達成されたか。
- － 「投入」のタイミングは妥当であったか。
- － プロジェクト内容の計画と実績の格差は正当化できるものか。

2. 目標達成度 (Effectiveness)

プロジェクトの「成果」の達成度合い及び、それが「プロジェクト」目標の達成にどの程度結びついたかを検討する。

「目標達成度」ではプロジェクト・チームが活動を通して達成した「成果」が「プロジェクト目標」達成につながっているかどうかを見る。もし、「プロジェクト目標」の達成度合いがおもわしくない場合は、どこにその原因があるのか、「活動内容」、「投入」、「外部条件」、「前提条件」にたちもどって探る。

具体的な視点：

- － 「プロジェクト目標」はどの程度まで達成されたか。
- － 「成果」の達成は「プロジェクト目標」の達成につながっているか。
- － 「プロジェクト目標」が達成されていなければいつ達成される見込みがあるか、等。

3. 効果 (Impact)

プロジェクトが実施されたことにより生じる直接的、間接的なプラス・マイナスの効果を検討する。これには計画当初に予想されていない効果も含む。

プロジェクトを実施することによりさまざまな影響（プラス・マイナスの効果）が生じる。プラスの直接的効果は「プロジェクト目標」として計画の時点で設定しており、その指標の動向を見ることで当初予期した直接的効果を把握することができる。同様にプラスの間接的効果も「上位目標」としてすでに計画の時点で設定されており、その指標を見ることによって予想されていた間接的効果を把握することができる。

一方で当初予期していないマイナスの効果あるいは予想されていないプラスの効果があればここで指摘し、プロジェクトとの因果関係を検討する。これらの評価結果は、プロジェクト・レベルの効果、セクター・レベルの効果、地域への波及効果等の側面からまとめる。

具体的な観点：

- － 「プロジェクト目標」 達成の度合いから判断して直接効果として指摘できるものは何か。
- － 「プロジェクト目標」 の達成により「上位目標」 はどの程度達成されたか。
- － 「プロジェクト目標」 の達成により予想されたもの以外にどのような効果があったか。
- － W I D、環境などの開発問題に与える影響はあるか。またそれらの開発問題にどのような貢献があったか。
- － 対象となっている社会、経済、制度や関連の技術などにどのような影響を与えているか。 等

4. 計画の妥当性 (Rationale, Relevanve)

評価時においてもプロジェクトの目標が有効であるかどうかを検討すること。

設定されたプロジェクトの目標が評価を実施する時点においても、有効であるかどうかを検討する。被援助国の開発政策や最終受益者のニーズに込えているかどうか、また込えるための対策がとられたか等の分析を行う。

具体的な観点：

- －設定された目標（上位目標、プロジェクト目標、成果）は現在でも被援助国の開発政策に合致しているか。
- －上位目標やプロジェクト目標は、現在の状況においても最終受益者のニーズに込えているか。
- －プロジェクトの実施中にその計画内容に影響を及ぼすような社会・経済的变化があったか。また、実施機関はそれら変化に対し、どのような対策を取ったか。
- －他の援助機関との関連は有効であるか。
- －「上位目標」、「プロジェクト目標」、「成果」及び「投入」の相互関連性は妥当であるか。

5. 自立発展性 (Sustainability)

協力が終了した後、援助プロジェクトによってもたらされた成果や開発効果の持続性が拡大再生産されているかどうかを把握し、併せて実施機関の自立度を運営管理、財務面、技術面、その他の諸側面から検討すること。

日本側の協力が終了した後、協力中に達成された成果や開発効果が持続して生み出されているかを把握する。実施機関については十分な運営管理能力を有しているか、政府のサポートは十分得ているか、財務基盤はしっかりしているか等を見ることによって、その後の見通しを把握する。

具体的な観点：

- －プロジェクトにおいて投入された施設、機材、人材を維持し有効に使うための経常経費は確保されているか。
- －実施機関には運営管理能力を十分に備えた人材が確保されているか。
- －技術移転を受けた人材は定着しているか。また、周辺への技術移転を積極的に行っているか。
- －活動は継続して行われているか。
- －プロジェクトのめざした目標に対するサポートは十分得られているか。

自立発展性の現況については、事後評価の段階で見ることが可能であるが、中間評価や終了時評価においては「自立発展の見通し」として検討することができる。

12-14 評価5項目に基づく
「緑の推進協力」中間評価表

"ネパール緑の推進協力プロジェクト" 「評価5項目」に基づく中間評価表

青年海外協力隊事務局

注) 本中間評価表において、「緑の推進協力計画（JOCVチーム派遣）」のMINUTES等で取り決められた活動は、すべて「村落振興・森林保全計画（プロジェクト方式技術協力）」のR/D、TSIおよび活動等に含まれているので、2プロジェクトの活動についてあわせて（一部合同）記載する。
したがって、本表中、「プロジェクト」で記載されていることは2プロジェクトの連携協力活動を指すものである。

なお、現在、青年海外協力隊事務局内で、チーム派遣に対する評価方法を検討中であり、本チーム派遣は、プロジェクト方式技術協力を模した形態ではあるが、個々の構成員は協力隊員であり、プロ技とはその主旨が異なるため、本表「評価5項目」に基づく評価がそのまま適用できない。したがって、本表については、これまでの経緯、活動進捗状況をとりまとめること、および問題を明確にすることを目的として作成したので、参考資料として取り扱うとともに、今後の計画軌道修正や類似案件立案の際のフィードバック材料として活用させていく。

1. プロジェクトの経緯概要

項目	経緯・概要
<p>1. 要請の内容と背景</p> <p>(1) 要請発出</p> <p>(2) 内容と背景</p>	<p>(1) 1994年1月</p> <p>(2)</p> <p>ネパール山間部では森林資源を生活物資、また重要な収入源として利用しており、山間部住民の貧困を一因とする森林の過剰伐採、利用が深刻な森林環境破壊を招いている。さらに、森林破壊が生活物資、収入源を不足させ、更に貧困を加速する悪循環が起きており、その解決が急務となっている。</p> <p>ネパールの森林は、インド平原と接する標高60mから330mの亜熱帯密林から8,000m級の峰々が連なるヒマラヤの高山灌木林まで極めて多様な様相を僅か150Km程の幅の中で呈している。その急峻な国土を覆う森林の富を享受する形の1つとして面々と連なる棚田/段々畑が形成され、国民の90%以上が森林よりの様々な産物を活用する形態の農業で生活の糧を得ており、その森林の利用についても我が国の入会/共有的な管理が主としてなされてきた。</p> <p>森林政策上の大きな転換点は、1957年の私有林国有化政策によってまずもたらされた。その旧来からの地域住民による森林の慣習的使用権を否定する政策は、地域の森林を利用/保全する担い手であるべき住民の役割を否定するものであり、1978年に政策が大転換され、地域社会（森林利用者へ直接ではないが）を森林経営の担い手とする制度が導入されるまで続いた（ただ、この時点での森林法はhand-overの対象はForest Users' Groupではなく地方の行政組織とされていた）。その後、世界的な熱帯林保全のための枠組みである熱帯林行動計画（TFAP）の範疇でその保全・開発のためのマスタープラン（Master Plan for the Forestry Sector, Nepal 1989-2010）が1989年にFINNIDAとADBの協力により作成されている。また、このマスタープランの行動計画として1990年にはAction Agenda to Implement the Master Planが策定され、これらに規定された枠組みの中で国際援助機関及びドナー国の支援のもとに、様々なプロジェクト/プログラムが実施されてきている。さらに1993年には森林法が改正され、森林利用者（Forest Users' Group）に旧来からの利用実態を踏まえて森林の管理・経営・利用権を正式に認める制度ができた。</p> <p>日本政府はネパール政府が策定した「熱帯林行動計画林業部門マスタープラン」（1989～2010）に基づき、「ネパール林業普及計画（技協プロジェクト）」（1991.7～1994.7）を実施した。この協力では、マスタープラン中の12のプログラムの内の普及部門における協力として、①中央レベルにおいて、マスタープラン主要6プログラムの普及ニーズ調査と、②西部開発地域において「住民/社会林業」プログラムにおける住民レベルのニーズとその充足度合いについてのフィールド調査を実施した。この調査結果によると、山間部地域の環境保全を進めていくためには、その地域が抱えている様々な問題点を包括的に把握しつつ村落振興を進めていくことが必須である。その際、特定の分野/セクターのみの支援ではなかなかこの山間部地域が抱える「貧困の悪循環（vicious circle of poverty）」を断ち切ることは困難であり、住民の抱える様々な/切実な生活向上のニーズを充たしていくことがその生活改善に繋がり、そのプロセスにおける住民参加に関するエンパワーメントを図っていけば、結果としてその地域全体の環境保全へのアプローチに収斂していけることが示されている。</p> <p>一方、「環境と開発に関する国連会議」（1992.6）を受け、日本政府は積極的に環境問題へ取り組むことを表明し、当事業団においても右方針のもと、環境問題関連事業の強化を行った。その一環として、従来アフリカ地域で実施してきたJOCVによる「緑の推進協力プロジェクト」を他地域に拡大していく構想が提起され、ネパールも対象国の一つとして実施可能性を検討してきた。</p> <p>かかる状況のもと、上記プロジェクトの成果を踏まえ、本件を含め、土壌保全・流域管理プログラムのパッケージ型の要請、「ネパール村落環境・森林資源開発計画（技術協力プロジェクト）」および「カスキ・バルパット緑の推進協力プロジェクト（JOCVチーム派遣）」が1994年1月にネパール政府より提出された。</p>

項目	経緯・概要
<p>2. 協力実施プロセス (計画立案段階) (1) 事前調査 (調査内容/調査内容に基づく決定事項要約)</p>	<p>1994年3月9日～1994年3月21日 (13日間)</p> <p>1994年1月にネパール政府より正式に提出された「ネパール村落環境・森林資源開発計画 (技術協力プロジェクト)」および「カスキ・バルバット緑の推進協力プロジェクト (JOCVチーム派遣)」を受け、「ネパール村落環境・森林資源開発計画」(林業水産開発協力部)「ネパール緑の推進協力プロジェクト」(青年海外協力隊事務局) 合同の事前調査団が派遣された。調査内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 要請内容の妥当性 2. 合同プロジェクトの展開方法 3. プロジェクトの目標・目的 4. 具体的活動内容 5. 事業実施方法 6. ネパール側実施体制 (実施機関・予算・人員配置等) 7. 日本側協力範囲の可能性 <p>ネパール側実施機関および関係機関との協議、活動対象地域視察の結果、要請の妥当性・重要性が明確となり、以下の点をふまえたうえ、実現に向け、積極的に取り組むこととなった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象地域 カスキ・バルバットの対象地域におけるプロジェクトのサステナビリティはもとより、将来の他山間部地域への普及の重要性。 2. 実施機関 ネパール側実施機関として、森林土壌保全省、同土壌補全局はもとより、郡開発委員会 (DDC)、村開発委員会 (VDC) との連携の重要性。 3. 協力の枠組み概略 目標、実施機関、活動内容、投入等 4. 協力方針は次の通り <ul style="list-style-type: none"> ・事業は地域住民自身の発意と計画に基づき行う。 ・住民自身が主体となるグループを実行組織とする。 ・住民グループに事業運営をまかせる。 ・住民各層に公平な機会が与えられるよう配慮する。 5. プロジェクト実施手法 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン作成 ・JOCVとローカルモチベーションによるM/Pチームを構成 ・専門家とM/Pチームの連携による計画支援 ・モニタリング手法の開発 6. 協力隊の手法 <ul style="list-style-type: none"> ・チーム派遣形態による隊員派遣 (10名) ・チームリーダーの配置 ・国内委員会の設置

項目	経緯・概要
(2) 実施協議 (調査内容/調査内容に基づく決定事項要約)	<p>1994年6月7日～1994年6月18日 (12日間)</p> <p>「ネパール村落環境・森林資源開発計画」(林業水産開発協力部)「ネパール緑の推進協力プロジェクト」(青年海外協力隊事務局)合同の事前調査団により、要請内容、協力体制、基本計画についてはおおむね合意を得られた。右結果をふまえ、実施体制、両国の負担事項、活動内容等、協力の枠組みにつき、協議と調査活動を行い、ミニッツ(プロ技のR/Dに相当する)の締結をする目的で派遣された。主な調査内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニッツの締結は協力隊調査団長とJOSHI土壤保全局長の間で行われた。技協プロジェクトとJOCVプロジェクトを2つのプロジェクトとして、個別に文書を交わした。詳細についてはミニッツを参照。 ・隊員に対する住居の提供および交通手段の確保については、ネパール国とのFN(青年海外協力隊員派遣に係る交換公文)に記載されており、同プロジェクトに派遣される隊員にも適用されるため、ミニッツからは削除した。 <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム派遣名 ネパール緑の推進協力プロジェクト ネパール村落振興・森林保全計画(プロジェクト方式技術協力) 2. 協力期間 1994年7月16日～1999年7月15日(5年間) 3. プロジェクトサイト カスキ郡、バルバット郡。 4. 実施機関 森林土壤保全省土壤保全局 (カスキ土壤保全事務所・バルバット土壤保全事務所) 5. 目標 ネパール山間部の村落資源の開発と保全を通じ、自然環境の向上を図る。 6. 活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 隊員はNGOから派遣されるローカルモチベーションとM/Pチームを形成する。 (2) M/Pチームはカスキ郡及びバルバット郡内の山間部村落で活動する。 (3) M/Pチームは村落生活の向上のためのニーズ調査を行い、また把握する。 (4) M/Pチームは住民の合意による村落振興事業の計画策定、実施を支援し、モニタリングを行う。

項目	経緯・概要
3. 協力実施プロセス (実施段階) (1) 計画打合せ (調査内容/調査内容に 基づく決定事項要約)	調査団等の派遣は無し。

4. 協力実施課程における特記事項

(1) 実施中に当初計画の変更はあったか。

- ・前提条件
- ・投入
- ・活動
- ・成果
- ・外部条件
- ・指標

R/D (プロ技)、MINUTES (チーム派遣) 等変更に関しつた特記事項はなかったが、日本側の問題として以下の点について列記したい。

(1) 長期専門家派遣の遅れ

プロジェクト開始	1994年 7月
WID専門家着任	1994年 8月
チームリーダー着任	1994年10月
調整員着任	1994年10月
流域管理専門家着任	1995年 5月

上記のように、特に流域管理専門家の派遣が大幅に遅れ、森林・流域管理事業及び村落基盤整備事業の遅滞につながった。

(2) 協力隊員派遣の遅れ

プロジェクト開始	1994年 7月
JOCVリーダー着任	1994年10月
協力隊員4名着任	1995年 4月
協力隊員6名着任	1995年 7月

上記のように、協力隊員10名がそろったのは、開始後1年経過してからとなり、サイトでの事業開始が1年遅れる事態となった。

(3) 長期専門家の要望

計画打ち合わせ調査団訪問時に、第2回合同委員会が開催され、その席上、長期専門家の増員要望が調査団から口頭で出され、NPCの代表からはネガティブなコメントがあったが、さらに審議していくことになった。

(4) 門田専門家の任期中の事故死

村落振興で派遣(95年8月31日～96年6月30日まで/10ヶ月間)されていた門田専門家が97年1月16日に死去したことにより、M/Pチームへの業務支援、特に苗畑運營業務に多大な支障が生じた。現在、長期専門家の増員問題と併せて、後任人事を検討中である。

(2) 実施中にプロジェクト実施体制の変更はあったか。

プロジェクト運営に関わるような実施体制の変更はなかったが、以下の2点につき、列記したい。

(1) 土壤保全局長の交代

プロジェクト開始から約2年10ヵ月経過しているが、現在までに局長が2名交代しており、現在のワグレ局長は3人目となっている。しかし、前局長の方針を継続しており、運営上問題はない。

(2) 1 NGOとの契約解除

1995年度は2つのNGOと協力し、事業を展開していたが、1996年2つのネパール人有識者によるNGO評価を実施し、報告書を検討した結果、1つのNGOとの協力関係を解除し、1996年4月からは、1 NGO (TOLI) とのみ、協力を継続している。

5. 他の援助機関との関連	<p>(JICAによる他の関連事業、OECDによる右償資金協力事業、他国の援助機関事業、国際機関事業等について協力事業名、事業内容、実施機関等を記入。)</p> <p>(1) ネパール村落振興・森林保全計画 (プロ技協) (事業内容及び実施機関等については資料参照)</p> <p>(2) 開発調査 西部山間部総合流域管理計画 (事業内容) カスキ郡及びパルパット郡の5モデルエリアにおいて、社会経済ベースライン調査を実施すると共に、地域住民の生活改善と適正土地管理に寄与するための総合流域管理計画の策定。 (実施機関) 森林土壌保全省土壌保全局</p> <p>(3) NGOの参加 (事業内容) プロジェクトと密接に連携しながら、各種事業の推進を図っている。現在、10名のボランティア及び3名のフィールドマネージャーの派遣等を行っている。 (実施機関) TOLI (Team Organizing Local Institution) (人員) NGOディレクター 1名、フィールドマネージャー 3名、エンジニア 2名、フォレストアシスタント 1名 ローカル・ボランティア 10名</p> <p>(4) 他国援助機関・研修等 フィールドレベルにおいて、ネパール地方政府 (DDC、VDC) 中央政府の出先機関 (農業省、森林省、水資源省、教育省など) はもちろんのこと、現地研究機関 (ポカラ林業キャンパス)、現地NGO (識字教育、Red Crossのトイレ普及、ACAPへの研修旅行など)、国際援助機関 (英国ODAやDANIDAの林業研修など)、国際NGO (ケア・インターナショナル) などと積極的に連携し、情報や意見交換を行ってきており、プロジェクトの成果にプラスの影響を与えた。 さらに、JICA社会開発協力部実施の砂防プロジェクト (プロ技) とともに定期的会合を通じて技術・情報交換を行ってきており、これは特に流域管理分野で有効であった。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

II. 計画達成度

(プロジェクトの計画内容がどこまで達成できたか、その度合いを「プロジェクト要約ごとに把握して、「実績」の欄に記述)

プロジェクトの要約	指 標	実 績	外部条件
上位目標 ネパール山間部の村落資源の開発と保全を通じ、自然環境の向上を図る。	1. ネパール山間部の森林資源の減少の緩和。 2. ネパール山間部の新たな植林面積の増加。 3. ネパール山間部の人々のエンパワーメント向上。	巡回指導時点では特に実績なし。	・ネパール政府が住民参加型の林業政策を変更しない。 ・ネパールの政治、経済、社会状況が極端に悪化しない。
プロジェクト目標 カスキ、バルバット郡の山間部において住民の主体的なイニシアティブと努力による村落の生活水準向上のための、女性と貧困層に配慮したモデル村落振興事業の展開を通じ、自然環境と土地生産力の向上、特に森林その他自然資源減少緩和、森林地域の拡大を図る。	1. カスキ、バルバット郡における森林資源の減少緩和。 2. 同上郡における新たな森林面積の増加。 3. 同上郡における女性および貧困層の生活向上及びエンパワーメントの達成。 4. モデル的な住民参加型の村落振興事業の増加。	住民のニーズに基づく村落基盤整備、森林・流域管理、収入向上の各村落事業と、能力開発・技能向上活動を、ジェンダー・コースト・経済階層に配慮しながら、住民主体で展開している。	・カスキ、バルバット郡における政治、経済、社会、自然状況が極端に悪化しない。 ・森林土壌保全局、カスキ、バルバット郡事務所の協力が継続される。
成果 1. カスキ、バルバット郡における住民(男女)の主体的な村落振興活動を通じて、森林及び村落資源保全のためのモデルが確立され、森林・村落開発事業が活性化される。	オペレーショナルガイドラインの作成・改善及びそれに沿ったモデルとなる村落振興事業の実実施数の増加とその質的向上。	新たなアプローチ/モデルとしてオペレーショナルガイドラインの作成・改善、およびそれに基づく村落振興・森林保全事業、能力開発・技術向上活動の実施。	多様な社会経済階層の村落住民(男女)が「緑の推進協力計画」「村落振興・森林保全計画」の趣旨を理解し、参加する。

プロジェクトの要約	指 標	実 績	外部条件
<p>2. ネパールの他の山間部地域にも適用し得る森林及び村落資源保全のための手法が開発される。その住民参加型手法がプロジェクト対象地域以外にも普及し、政府及びNGOが自立発展的に森林・村落資源保全活動を展開する。</p> <p>3. 森林及び村落資源保全の手法と技術がネパール政府職員及び現地NGOに移転される。</p>	<p>ネパールの他の山間部地域において、本プロジェクトで開発された森林・村落資源保全のための住民参加型手法を採用したサブ・インターコミュニティプロジェクト数の増加。(1999年以降)</p> <p>政府及びNGOによる森林及び村落資源保全事業の持続発展的実施。</p>	<p>森林土壌保全局によるモデル森林・村落資源保全事業の普及準備としてKRII予算を執行中。</p> <p>政府、NGOに対する能力・技能向上のため、国内外及びフィールドレベルで様々な研修を実施した。</p>	<p>ネパール政府が新しく開発されたモデルを評価し、他の山間地域にも普及する努力を継続する。</p> <p>政府及びNGO C/Pの定着</p>
<p>活動</p> <p>1-1 住民ニーズ把握のガイドライン作成。</p> <p>1-2 ガイドラインに沿った調査手法の確立と適用。</p> <p>1-3 住民ニーズに基づく村落振興計画の作成・実施の支援。</p> <p>1-4 村落振興及び森林保全に必要な投入についての検討。</p> <p>1-5 投入結果に基づく資機材の投入の実施。</p> <p>1-6 村落振興及び森林保全に関連した適切な技術の開発と適用。</p> <p>1-7 村落振興及び森林保全事業実施後のモニター手法の開発と適用。</p> <p>1-8 村落振興及び森林保全事業の評価手法の開発と適用。</p>	<p>投入 (日本側の投入)</p> <p>プロ技 専門家派遣 ローカルコスト負担 機材供与 研修員の受入 調査団派遣 JOCVチーム派遣 個別専門家派遣 (チームリーダー) 協力隊員派遣 ローカルコスト負担 機材供与 研修員の受入 調査団派遣</p> <p>(NGO支援) ローカルボランティアの派遣 協力支援費負担</p> <p>(ネ側の投入) C/Pの配置 ローカルコスト負担 事務所用土地及び倉庫用土地の提供</p>	<p>投入 (日本側の投入)</p> <p>プロ技 専門家派遣 (94/ 長3短4) (95/ 長4短7) (96/ 長4短6)</p> <p>ローカルコスト負担 (94/ 一般 US\$ 94,606 啓蒙 US\$ 48,814) (95/ 一般 US\$ 128,435 啓蒙 US\$ 68,100 技術交US\$ 27,570 造対 US\$ 115,287 プロ基US\$ 80,585)</p> <p>(96/ 一般 US\$ 96,398 啓蒙 US\$ 55,376 造対 US\$ 178,480)</p> <p>機材供与 (94/ 3,305.9万円) (95/ 3,076.7万円) (96/ 1,958.6万円)</p>	<p>前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「緑の推進協力」、「村落振興・森林保全計画」に対して日本政府が当初のコミットメントと支援を継続させる。 ・ネパール政府が当初のコミットメントと支援を継続させる。 ・村落住民がプロジェクト及びMPチームを受け入れる。

プロジェクトの要約	指 標	実 績	外部条件
<p>1-9 関連する機関やグループとの密接な連携。</p> <p>2-1 カスキ、パルバット郡のモデル形成から、村落振興のポイントを抽出する。</p> <p>2-2 上記ポイントを活用した他の地域にも適用可能な村落振興手法を開発する。</p> <p>2-3 カスキ、パルバット郡のモデル形成に適用された手法の効果を検証する。</p> <p>3-1 多様な段階での訓練を通じ、C/Pの技能を高める。</p> <p>3-2 フィールドレベルのセミナー、ワークショップ、訓練などを通じ、C/Pの技能能力を高める。</p>		<p>研修員受入 (94/3名、95/3名、96/3名)</p> <p>調査団受入 (95/計画打合せ調査団)</p> <p>JOCVチーム派遣 専門家派遣(長1)</p> <p>ローカルコスト負担 協力隊派遣 (10名)</p> <p>(95/ 一般 US\$ 32,890 機材 US\$ 104,349)</p> <p>(96/ 一般 US\$ 75,762 機材 US\$ 112,787)</p> <p>研修員受入 (96/1名)</p> <p>(NGO支援)</p> <p>JICA側の支出予算額 (95/ Rs 2,240,529) (96/ Rs 3,112,154) (97/ Rs 3,360,000)</p> <p>ローカルスタッフ配置 (16名)</p> <p>(ネ側投入)</p> <p>C/P配置 (94/5名、95/16名、96/16名)</p> <p>予算 (94/ 不明) (95/ Rs 2,044,998) (96/ Rs 732,308) (2月までの執行分)</p>	

Ⅲ. 評価結果要約

1. 目標達成度（プロジェクトの「成果」が、「プロジェクト目標」の達成にどれだけつながるかその見込み検討）

注) 「緑の推進協力計画」のMINUTES等で取り決められた活動は、すべて以下の「村落振興・森林保全計画」のR/D、TSIおよび活動等に含まれているので、2プロジェクトの活動についてあわせて記載する。

(1) プロジェクトの各「成果」が「プロジェクト目標」達成につながったその度合い	成果の達成度	プロジェクト目標達成につながるのを阻害する要因
	<p>成果1（村落・森林資源保全モデルの確立）</p> <p>「オペレーショナル・ガイドライン」にしたがい、現地技術と知識に基づいたモデル村落振興・森林保全事業（村落基盤整備事業、森林・流域保全事業、収入向上事業）や能力開発・技術向上活動（住民向け研修、先進地視察、識字教室など）は順調に実施されている。</p> <p>村落基盤整備事業により整備された施設の周辺に植林を行われるなど、村落振興事業が植林に結び付くという意識が芽生え始めている。苗畑も各地で設置され、国有林のハンドオーバーに関するシステムも整備中である。また、識字教室などを通して森林保全に関する知識を普及し醸成するよう計っているが、今後もさらに環境教育を推進する必要がある。</p> <p>多様な経済社会階層の住民男女がより公平に開発事業へ参画し、便益を享受している。</p>	<p>毎年各M/Pチームが新たに5ワードで事業を開始、3年で15ワードをカバーするという当初の計画に従うと、業務量が膨大になりすぎる、各事業の質が低下し、フォローアップが十分行えない等の恐れがあり、村落開発手法の開発という成果の達成、住民の技能、意識の向上のため、1996年度に活動ワード数を減らすよう修正した。</p> <p>1ワードにつき3年間で20万ルピーという支給額、3年間という支援期間も、事業が性急に行われるきらいがあり、検討し直す必要がある。</p> <p>村落振興事業は順調に行われたが、森林保全に対する啓蒙普及、研修活動の強化が必要である。</p> <p>女性及び職業カーストの公平な参画と便益の分配の徹底を図るためのアプローチの継続的検討が課題である。</p> <p>現地のニーズや実態をさらに的確に反映し、効果的に村落振興・森林保全を進めるための「オペレーショナル・ガイドライン」の継続的な改善が必要とされている。</p>

(1) プロジェクトの各「成果」が「プロジェクト目標」達成につながったその度合い	成果の達成度	プロジェクト目標達成につながるのを阻害する要因
	成果2 (他山間部に適用可能な手法の開発と展開) 現在のところ、プロジェクトの対象地域内のみ活動は限定されている。 森林土壌保全局が、モデル村落振興・森林保全事業普及のためのKRII予算を活用し、プロジェクト対象地域外で事業実施してきているが、詳細は現在の不明である。	プロジェクトで開発されたアプローチや手法の普及をどのように他地域に拡大していくかについて、プロジェクトの終了に先駆けて、政府及びNGOと検討していくことが今後の課題である。
	成果3 (開発された手法の政府・NGOへの移転) 政府、NGOに対する能力、技能向上のため、国内外及びフィールドレベルで様々な研修・セミナー・ワークショップが実施され、効果をあげた。	政府、NGOの自己資金調達、人材獲得、技術能力の強化を図り、特にNGOの持続発展性を確保する。

(2) プロジェクトの各活動が成果につながったその度合い	活動の状況	成果につながるのを阻害した要因
	<p>活動1-1 (住民ニーズ把握のガイドライン作成)</p> <p>村落において、異なる社会経済階層の住民男女と会合を重ねることにより、開発ニーズを把握してきた。住民は女性や職業カーストも含めて村落の問題をニーズとして把握し、民主的な討議によって適切に事業の優先順位をつけることなどを習得した。</p>	<p>MPチームに頼らず、住民が自発的に会合をもち、的確にニーズを把握できるようになるためのアプローチ作りが課題である。</p> <p>女性、職業カーストや貧困層のニーズは必ずしも適切に考慮されていない。</p>
	<p>活動1-2 (ガイドラインに沿った調査手法の確立と適用)</p> <p>情報普及資料の開発・改善が行われた。マイクロベースライン調査もMPチームにより実施され、地域の基本情報が収集された。</p> <p>また、地滑りなど流域管理に関する各種データを収集している。</p>	<p>マイクロベースライン調査の項目を整理し簡略化する必要がある。PCM、ジェンダー分析、PRAの研修も行われたのでその活用が今後の課題である。</p> <p>流域管理の各種データは、収集期間が短く、未だ十分に活用できない。</p>
	<p>活動1-3 (住民ニーズに基づく村落振興計画・作成・実施の支援)</p> <p>住民ニーズと要請に基づいて、村落振興・森林保全事業や能力開発・技能向上のための研修、スタディーツアー、識字教育（女性向け）などが実施されてきた。</p> <p>苗畑設置・運営、育苗に関する研修が行われ、各地に苗畑が設置された。コミュニティフォレストへのハンドオーバーに関する支援体制も整備中である。</p> <p>住民による事業実施主体としてユーザーグループが結成され、自己決定過程を通じた事業計画・実施が行われている。</p>	<p>村落基盤整備事業に関しては、大きな活動成果がみられるが、森林保全事業への支援を強化する必要がある。収入向上活動について住民の関心が高まっているが、市場化への課題が残されている。識字教室については、内容と教授方法に女性のエンパワーメント、環境保全などを盛り込んでいく必要がある。</p> <p>ユーザーグループの組織強化（公平な構成員、内部規則、自己資金調達能力、交渉能力、情報収集能力など）のためのアプローチを検討する必要がある。</p>

(2)	活動の状況	成果につながるのを 阻害した要因
	<p>活動1-4 (村落振興及び森林保全に必要な投入についての検討)</p> <p>村落内事業については、1ワードにつき3年間で20万ルピーが原則として投入される。事業の総費用の半分は住民負担(労働参加及び現地で調達可能な資材など)を原則としてきたので、事業が「自分たちのもの」であるという意識が高まっている。</p>	<p>資材の調達、運搬に関して、住民の自助努力を高める方法の検討が必要。</p> <p>村落間事業は、相対的に規模が大きく、施工が請負型になっているものもあるので、今後、住民による管理方法を検討する必要がある。</p>
	<p>活動1-5 (投入検討結果に基づく資機材の投入の実施)</p> <p>村落で調達不可能な資材や技術に関しては、プロジェクトで負担してきた。</p>	<p>村落における資材・技術の調達能力を高める必要がある。</p>
	<p>活動1-6 (村落振興及び森林保全に関連した適切な技術の開発と適用)</p> <p>村落基盤整備と流域管理については、蛇かご、空石積チェックダムなどの簡単で安価な現地技術を利用し、土壤保全事務所職員、NGOの技術者、住民が施工管理を行っている。森林保全についても、土着の村落林業や植林知識を活用して植林活動を進めている。収入向上事業や識字教室、その他の研修については、他の省庁や関係組織の情報や人材を活用した。</p>	<p>施工管理に関して問題が生じた場合、連絡が迅速に行われないことがある。また、適切に対処できないことがある。また、住民の間で現地技術の活用に関する理解は必ずしも十分ではない。</p> <p>土壤保全事務所職員、NGOの技術能力を高めるとともに、自分たちで対処できない技術についてはその入手方法を確保し、データベース化する必要がある。</p> <p>森林保全に関しては、技術よりも放牧のコントロール、私有地への植林、コミュニティフォレストの登録を通じた公平な私有権の分配、計画的な植林と森林利用など、社会的側面へのアプローチが今後の課題である。教育普及パッケージなどの開発も重要課題である。</p>

(2)	活動の状況	成果につながるのを 阻害した要因
	<p>活動1-7 (村落振興及び森林保全事業実施後のモニター手法の開発と適用)</p> <p>主にユーザー委員会を通じてモニタリングが行われ、モニタリング能力が向上してきた。しかし、その手法は明確に示されてはいない。収入向上事業については、MPチームが経験に基づき、パンフレットなどを作成してきた。</p>	<p>住民の事業計画実施能力は向上したが、今後は事業の持続発展性を高めるためのモニタリング、維持管理技能（特に自己資金調達能力）の向上を図る必要がある。そのため、事業の進捗状況を簡単に把握できる手法、及び途中で問題が生じたときの対処方に関する簡単なマニュアルの開発が必要である。</p>
	<p>活動1-8 (村落振興事業及び森林保全の評価手法の開発と適用)</p> <p>住民自身による簡単な評価（グループ評価など）を行った。</p>	<p>住民自身ができる簡単な評価手法を住民に提示、あるいは住民と一緒に考察していく必要がある。</p>
	<p>活動1-9 (関連する機関やグループとの密接な連携)</p> <p>住民は、村落レベルの訓練やワークショップ、研修旅行を通じて、政府機関やNGOとコンタクトができるようになった。</p>	<p>MPチームがサイトを移動した後も住民が独自に技術・資金などに関する情報収集や交渉ができるようになるための意識を形成し、体制を整備することが課題である。</p>
	<p>活動2-1 (カスキ、パルバット郡のモデル形成から、村落振興のポイントを抽出する)</p> <p>現在まで、モデル形成のための様々な村落振興・森林保全事業及び能力開発・技能向上活動が実施されてきた。それらについて、インパクト調査を行い、ポイントとなる事象を分析中である。</p>	<p>村落振興・森林保全事業及び能力開発・技能向上活動は、未だに進行中である。村落インフラについては計画、実行、モニタリングの1サイクルがようやく終了しようとしており、森林保全、収入向上及び識字教室などについては未だ1サイクルが終了していないため、ポイント抽出作業はとりまとめられていない。今後、プロジェクトの終了に先駆け、事業・活動のサイクルが終了した段階で、分析作業を進める必要がある。</p>

(2)	活動の状況	成果につながるのを 阻害した要因
	<p>活動2-2 (上記ポイントを活用した他の地域にも適用可能な村落振興手法を開発する)</p> <p>村落振興・森林保全事業及び能力開発・技能向上活動が進行中であるため、実施されていない。</p>	<p>同上</p>
	<p>活動2-3 (カスキ、パルバット郡のモデル形成に適用された手法の効果を検証する)</p> <p>村落振興・森林保全事業及び能力開発・技能向上活動が進行中であるため、実施されていない。</p>	<p>同上</p>
	<p>活動3-1 (多様な段階での訓練を通じ、C/Pの技術能力を高める)</p> <p>プロジェクトの様々な段階で、国内外において訓練、セミナーが実施された。その結果、住民、NGO、土壤保全事務所職員、JOCV、プロジェクトが一体となった事業の効率的な運営に貢献してきた。</p>	<p>引き続き、住民参加型の村落開発、森林保全、流域管理などに関する訓練・セミナーの開催が必要である。また、訓練・セミナーの成果が、必ずしも住民ニーズに対する迅速かつ的確な対応に結び付かない場合もあるので、C/Pに対する動機付けが必要である。</p> <p>NGOの組織強化(自己資金調達、人材獲得、技術能力)のための研修が必要である。</p>
	<p>活動3-2 (フィールドレベルのセミナー、ワークショップ、訓練などを通じ、C/Pの技術能力を高める)</p> <p>プロジェクトの様々な段階で、現地技術を考慮した様々な訓練、セミナーが実施され、参加型村落開発の支援と、住民に理解しやすく持続性のより高い事業の効果的な運営に貢献してきた。</p>	<p>引き続き、住民参加型の村落開発、森林保全、流域管理などに関する訓練・セミナーの開催が必要である。特にジェンダー分析、PRA、住民参加型評価手法などについては、JOCVやC/Pの交代もあるため、今後も定期的に行っていく必要があるとともに、JOCV派遣前訓練においても研修を行う等の工夫が必要である。</p>

2. 効率性

(プロジェクトの「投入」から生み出される「成果」の程度を把握し、手法、方法、費用、期間等の適切度を検討)

<p>(1) 投入のタイミングの妥当性 (日本側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の派遣 ・ ローカルコストの負担 ・ 機材の供与 ・ 研修員の受入 <p>(相手側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土地、施設、機材の措置 ・ C/Pの配置 ・ ローカルコストの負担 	<p>(日本側)</p> <p>主な点は「I. プロジェクトの経緯概要 4. 協力実施課程における特記事項」を参照。</p> <p>他の投入についてはほぼ計画通りであった。</p> <p>事業開始から2年を経過し、下記投入がほぼ予定通り行われ、協力対象地区住民の理解・意識が高まり事業が円滑に進捗した。</p> <p>(1) 協力隊員着任までにNGOボランティア及び専門家がサイトオフィスの選定/借り上げ等の準備を実施した。</p> <p>(2) 活動進捗にあわせて機材供与をし、資機材整備を行い、事業関連予算(啓蒙普及活動費、プロジェクト基盤整備費、造林推進対策費等)を適正に執行した。</p> <p>(ネパール側)</p> <p>(1) M/Pチームとサイト業務を行うC/Pの配置が大幅に遅れ、3人体制(協力隊員/NGOボランティア/DSCOスタッフ)が出来上がったのは96年はじめであった。</p> <p>(2) 事業開始当初は、基盤整備事業が多く、設計及び見積り等をこなせるDSCOスタッフが少なく、事業実施に遅れが生じた。</p> <p>(3) ネパール側から事業運営に関わる予算支出は十分になされておらず、プロジェクトからも要望している。</p>
<p>(2) 投入と成果の関係(投入の量・質と成果の妥当性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家派遣・機材供与 ・ 研修員の受入 <p>(相手側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土地、施設、機材措置 ・ C/Pの配置 ・ ローカルコスト負担 	<p>次ページ以降参照</p>
<p>(3) 無償等他の協力形態とのリンクージ/OECF、第3国国際援助機関による協力とのリンクージ</p>	<p>「I. プロジェクトの経緯概要 5. 他の援助機関との関連」を参照。</p> <p>フィールドレベルにおいて、現地NGO(識字教育、Red Crossのトイレ普及、ACAPへの研修旅行など)、国際援助機関(英国ODAやDANIDAの林業研修など)、国際NGO(ケア・インターナショナル)などと積極的に連携し、情報や意見交換を行ってきており、プロジェクトの成果にプラスの影響を与えた。</p> <p>さらに、JICAプロ技砂防プロジェクトとも定期的会合を通じて技術・情報交換を行ってきており、これは特に流域管理分野で有効であった。</p>
<p>(4) その他</p>	<p>特になし。</p>

評価項目	中間評価結果
(2) 投入と成果の関係	<p>(日本側)</p> <p>(1) 長期専門家の分野及び投入人数 プロ技長期専門家は、R/D締結当初のネパール政府側の強い要請により、リーダー、調整員、流域管理、WIDの4名を派遣してきたが、森林保全分野では、10ヵ月の短期専門家を繰り返し派遣してきた。しかし、1997年1月に当該分野の短期専門家が死去し、苗畑設置などの事業に大幅な遅れが生じたため、現在は連携している現地NGOスタッフとしてフォレストアシスタントを臨時雇用して対処している。今後、森林保全分野の活動を強化することが緊急課題であるため、同分野の長期専門家を投入することが必要である。村落開発分野に関しては、これまで専門家、JOCVリーダー、隊員、政府及びNGOのC/P全員で共同で実施してきた。しかし、村落開発によって達成される住民男女のエンパワーメントが、有効で公平な森林資源利用や森林保全活動に結びつくには至っていない。従って、村落振興と森林保全を結び付ける包括的アプローチを発展させる必要があり、そのためにも長期専門家の増員が不可欠であろう。</p> <p>(2) JOCVの分野 JOCV隊員は「村落開発普及員」の分野で10名、1995-96年度にかけては、女性6名、男性4名であったが、1997年度は、女性の構成比がより大きくなった。ネパールでは文化的事情から、女性の参加を促す観点で性別構成は望ましいが、地理的環境、NGO男女構成比を考え、人数構成は再考する必要がある。隊員の分野としては、特定の技術分野よりも、村落問題に包括的・クロスセクターに対処するというアプローチの方が住民に受け入れやすく、引き続き村落開発普及員が望ましい。</p> <p>(3) 予算措置 活動進捗にあわせて機材供与をし、資機材整備を行い、事業関連予算（JOCV現地業務費、啓蒙普及活動費、プロジェクト基盤整備費、造林推進対策費等）を適正に執行した。</p> <p>(4) 投入の量・質と事業の進捗 事業開始から2年を経過しているが、上述投入の量・質は妥当であり、最初の協力対象地区住民の理解・意識が高まり、事業の進捗は速まった。</p>

評価項目	中間評価結果
(2) 投入と成果の関係	<p>(5) 予算枠の確保</p> <p>一般的に、JOCVチーム派遣費およびプロ技一般現地業務費・機材費は原則低減方式を取っているが、その一方、後発開発途上国（LLDC）であるネパールにおいて、ローカルコストの大幅負担を政府に要請することは困難であり、プロジェクトの目標達成にマイナスの効果を及ぼさないよう今後の活動形態を工夫する必要がある。</p> <p>また、プロジェクトにおいて村落振興という幅広い多様な活動を展開しており、例えば、人口増加が森林減少の一端を担っているということから、村のヘルス・ポスト建設や人口教育などの要請があり、それに直接応えることができるような、用途が広い予算措置も検討が必要である。</p> <p>プロ技啓蒙普及活動費から、これまでカウンターパートの現地研修や、200件近い住民男女対象の研修やセミナー、研修旅行、女性を対象とした識字教室が実施されてきており、著しい成果をあげてきた。今後もこのような住民男女の能力・技術向上のための活動の要請が高くなると思われる。</p> <p>機材供与費に関しては、プロジェクト運営にとって十分な額が、車両、コンピューター、視聴覚機材などに適宜活用されてきているが、活動進捗に悪影響をおよぼさないよう、今後もその購入、輸送には迅速な対応を行っている。</p> <p>プロジェクトはローカルNGOを有効活用し成果を取めているが、今後同様のプロジェクトのためにも、本部内で「NGO連携支援費」のような新規予算確保を検討することが急務である。また、NGOを媒介とし、現地の状況に適合した共同体回転基金（Community Revolving Fund）や融資制度などの導入のための予算措置もプロジェクト側で考慮する必要があるだろう。NGOに関しては長期的には独立採算制を目指してはいはいるものの、ネパール政府同様、まだ弱体であるので、時間をかけて自立発展性を求めていかなければならないのが現状である。</p>

評価項目	中間評価結果
(2) 投入と成果の関係	<p>(ネパール側)</p> <p>(1) 資金及び機材の投入 DSCOはC/Pをカスキ、パルバット郡に配属してきたが、その専門分野が偏っていたり（農学、林学）、草の根レベルでの活動や住民の組織化の進め方や、村落基盤整備や流域管理の技術的側面などに経験が乏しい者も多いので、引き続き研修やフィールドでの体験を積んで、村落振興や森林保全・流域管理の手法を習得していく必要がある。積算書作成や土木工学的技術のレベルは必ずしも十分ではないため、住民ニーズに迅速に対応できないこともある。それらの分野でもカウンターパートの技術の向上を図る必要がある。 また、配置人数も不足しており、関係機関への申し入れを行っていく必要がある。 土壤保全局に対してはKRII資金が配分されてきており、他の地域においても同様の村落振興・森林保全活動が展開されてきている。</p> <p>(2) 研修 1994-1997年（平成6、7、8年度）、ネパール政府職員はプロ技「村落振興・森林保全計画」枠で9名（山村振興3名、流域管理4名、森林保全政策1名、WID1名）、チーム派遣「緑の推進協力」枠から1名（流域管理）が日本にてC/P研修を行った。プロ技技術交換計画では、1995年に専門家1名及び政府職員4名が、北京女性世界会議に出席した。また、平成8年度には、ミャンマーからの技術交換を受け入れた。政府職員は帰国後、プロジェクト活動にも積極的になり、専門家、隊員とのコミュニケーションも向上しており、概して有効であったと思える。</p>

3. 計画の妥当性

(評価時におけるプロジェクト計画の妥当性を検討)

<p>(1) 上位目標の妥当性 ・ 受益者ニーズとの整合性 ・ 開発政策との整合性</p>	<p>(1) 受益者である山間部住民を直接の支援ターゲットとして、参加型の開発手法の展開を図っているところ、正に受益者のニーズを反映させる活動を展開しており、またニーズに応えうるアプローチを利用している。</p> <p>(2) 上位目標はネパール政府の「第8次5カ年計画（1992-97年）」及び「林業部門マスタープラン（1989-2010年）」に沿ったものであり、政府の地方分権政策、NGOの活用等、現在の政策との乖離はない。 住民参加、貧困削減、環境保全、WID等の全ての分野に総合的に対処する方法を取っている。</p>
<p>(2) プロジェクト目標の妥当性 ・ 上位目標との整合性 ・ 実施機関の組織ニーズとの整合性</p>	<p>(1) 上位目標との乖離はない。モデル村落振興事業は、順調に進捗しており、今後は森林/自然環境保全への流れを強化、促進していく必要がある。</p> <p>(2) 森林土壌保全省のマスタープランの重点プログラムに基づく組織ニーズと合致している。</p> <p>(3) プロジェクト目標も上位目標同様、ネパール政府の「第8次5カ年計画（1992-97年）」及び「林業部門マスタープラン（1989-2010年）」に沿ったものである。</p>
<p>(3) 上位目標、プロジェクト目標、成果及び投入の相互関連性に対する計画設定の妥当性</p>	<p>(1) プロジェクトの成果がネパールの他の山間部地域にも適応されるためにはネパール政府の実施体制の一層の整備とカウンターパートNGOの組織的強化が必要である。</p> <p>(2) プロジェクトの計画内容、アプローチは、これまでのODAによる協力のみならずネパールの開発にとっても画期的であり、特に住民の主体に基づく参加型開発、プロ技/JOCVチーム派遣/ネパール政府/現地NGOの四者有機的連携アプローチはこれまでに例を見ない。今後の村落開発型プロジェクトの参考となる。</p> <p>(3) 「上位目標」「プロジェクト目標」「成果」「投入」の相互関連から、「計画設定・活動」は現在までのところ妥当であり、住民の主体性による村落振興を行ってきた結果、少しずつではあるが、森林保全活動に進展が見られるようになった。2年間かけて住民との信頼関係が構築されつつあり、今後は、環境・森林保全に体する啓蒙普及活動をもっと積極的に展開していくことが必要となる。現地カウンターパートは原則的に変化しないが、協力隊員は、基本的には2年ごとに入れ替わるので、住民との信頼関係は引き続き、慎重に築いていく必要がある。</p>
<p>(4) 妥当性を欠いた要因 (ニーズ把握状況、プロジェクトの計画立案、相手国実施体制、国内支援体制等の観点から記述)</p>	<p>特になし。</p>

4. 自立発展の見通し

(中間評価時における自立発展の見通しを、自立発展に必要な要素が整備されつつあるかを中心に評価)

	自立発展の見通し
<p>(1) 制度的側面 (政策的支援、スタッフの配備・定着状況、関連組織との連携、運営管理能力との観点から記述)</p>	<p>(1) 政府のスタッフ配備等は関係者の努力により比較的順調に推移しているものの、依然として人員不足であり、早急な解決が必要である。また山間部僻地住民に対するサービスを遅滞なく提供するような制度（モラル／待遇／ロジスティック）が確立していないが、この点はネパール政府側の努力が必要である。 (2) 地方レベルでの関連行政機関との連携はスムーズにしている。</p>
<p>(2) 財政的側面 (必要経費の資金源、公的補助の有無、自主財源、経理処理状況等の観点からの記述)</p>	<p>(1) 各種予算については、極めて限られた国家予算の中で措置しようという姿勢は感じられる。また、KRII予算については年々その配布額が増加している。 (2) プロジェクト終了後の自主的運営に係る予算（特にロジスティック関係予算）については殆ど期待できない。</p>
<p>(3) 技術的側面 (移転された技術の定着状況、施設・機材の保守管理状況、現地の技術的ニーズとの合致状況等の観点から記述)</p>	<p>(1) 既存の技術を基に、住民が施工管理可能なレベル、各行政機関／NGO等が培ってきたレベルの事業を展開している。収入向上事業では、事業実施後の市場ルート開拓・確保が重要な課題となる。</p>
<p>(4) その他</p>	<p>(1) 自主発展の観点から最も求められている点は、参加する政府職員及びNGO職員のモラルを高めるためのインセンティブをどのように確保していくかという人材確保／要請の制度的側面と住民のエンパワーメントに関して如何にスムーズな行政サービスを提供するかというロジスティック・サポートの維持・強化の側面があるが、双方とも、ネパール政府側の努力が必要である。 (2) ネパール政府が、プロジェクトのアプローチをどの程度理解し、そのようなアプローチがネパールの村落開発・森林保全のために効果的であると判断し活用するかどうかは、プロジェクト終了後、あるいはそれ以前にすでに同様のアプローチを他の地域においても採用するかどうかで判明する。現在までに、ネパール政府はKRII予算で、他の地域で同様の活動をしているので、その実態を分析すると同時に、プロジェクト終了時、及び終了後に再度、評価をする必要がある。</p>

評価項目	自立発展の見通し
<p>(4) その他</p> <p>右(4)については、組織・財政・技術的側面すべて含まれているので、本項目に記入</p>	<p>(3) カウンターパートNGOの自立発展性に関しては、今後、その自己資金調達能力の向上及び経験を積んだ優秀な人材の確保が課題になってくる。これまで、カウンターパートNGOは、ILO、ADB、世銀、日本のNGO等の資金協力で活動してきており、活動資金源の多様化を図ってきている。しかし、プロジェクトで得た経験や手法を他の地域にも普及していくことが、本プロジェクトの「成果」の一つになっていることから、このNGOの能力強化及び自立発展性の方法について、プロジェクト終了時まで具体的に検討し実践に移していく必要がある。</p> <p>(4) 村落の住民男女レベルでの自立発展性に関しては、ある程度の成果が見られている。これまでは、村落事業に関して、事業終了時になってから維持管理体制が検討されることが多く、今後は、計画段階から維持管理まで組み込んで計画・事業実施をしていくことが必要である。これまでの例では、給水タンクや歩道の維持管理費を、住民男女が自主的に集め、定期的に補修しているところもあり、また、女性を中心に行われてきた収入向上活動に関しては、当初から、収益の一定の割合を女性グループの共同基金として積み立てているところもあり、グループが自主的に事業以外の収入向上活動を始めたケースもある。</p> <p>さらに今後は、単に事業の維持管理というレベルを越えて、共同体の組織化、組織自体の強化や継続性（組織としての交渉能力、情報収集能力、自己資金調達能力の向上、ユーザーグループから登録されたNGOや協同組合への転化など）、個人レベルでのエンパワーメント（特に女性や職業カースト、貧困層のエンパワーメント、リーダーシップの発掘・強化など）についても、その手法を分析・蓄積していく必要がある。</p> <p>また、村落振興や収入向上事業についてはかなりの成果が上がっているが、環境・森林保全分野での成果が相対的に見ると、多少立ち後れている。森林保全に関する意識は、災害が起きない限り、未だ低い状態である。これは土地利用の観点から、田畑としての利用が優先されることが一因となっているためである。また、森林や牧草地は国有地が多く、権利関係が不明確であることから、粗放な土地利用がなされ、荒廃を引き起こしている例が見られる。今後は開発調査の結果を踏まえ、森林以外の土地利用も考慮に入れた森林保全を進めていく必要がある。この分野での活動の強化を図り、住民男女の自立発展性にさらに貢献していく必要がある。</p> <p>(5) プロジェクト終了後における政府、カウンターパートNGO、村落住民男女の自立発展性を発展させるために、協力期間中からプロジェクト終了時に向け、持続発展性につながるような活動を意識的に組み込んで準備していく必要がある。</p>

評価項目	中間評価結果
<p>案件の効果 (Impact)</p> <p>(中間評価段階での効果を評価)</p>	<p>(1) プロジェクトがターゲット・グループに与えた直接的効果・影響に関しては、1997年1-3月、参加型集団評価手法によりサンプル的にフィールド調査が実施された。</p> <p>(2) WID、貧困、環境、教育などの社会開発分野に関しては、すでにプロジェクトの「オペレーショナル・ガイドライン」にも重要項目として組み込まれており、常に注意をして活動を実施している。その結果、そのような分野への大きな直接的なインパクトが生じている。</p> <p>(3) 間接的なインパクトとしても、村落で女性グループが新たに形成されたり、職業カースト及び貧困グループなどの既存のグループの活動が活性化するなど、効果が出ている。</p> <p>(4) プロジェクトで一定の成果は認められたものも、全ての地域で完全には対処できていない課題としては、以下のような事項があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 住民が自力でできるにも関わらず、逆にプロジェクトへの依存的な態度を強める傾向 - プロジェクトから支給された資材に対するオーナーシップ意識の欠如 - 「開発」が外部から持ち込まれたものという従来の依存的考え方 - 従来のジェンダー規範・役割が壁となって、女性が意思決定過程に参画できない - カーストや民族、貧富の差の壁を越えて村落開発に共同で取り組むという意識を形成することが困難 - 村落基盤整備事業や収入向上事業への参画が、必ずしも森林保全に関する意識の向上や事業の実施に結びついてこない <p>これら問題点は、一部ネパールの根深い社会問題であり、プロジェクトでは解決できないことも含まれているため、長期的視野に立つ必要がある。</p> <p>住民男女のエンパワーメントに関しては、その萌芽が見られる段階であり、今後とも、持続的な開発をめざしたアプローチが継続的に検討される必要がある。</p>

IV. プロジェクトの軌道修正の必要性及び提言

提 言	軌道修正の必要及び提言
1. プロジェクトの計画内容	<p>(1) PDMのフレームワークについては、ネパール側と日本側とで随時意見交換、改訂を行っている。今後も活動進捗等に応じ、必要があれば改訂を行う。</p> <p>(2) 日本側投入について、長期専門家の1名（村落振興）の増員の必要がある。</p> <p>(3) ネパール側投入について、DSCO C/Pの増員を至急実現する必要がある。</p> <p>(4) 協力対象となるWARD数、および1WARDの協力期間（3年）については専門家、隊員への負担も大きく、また事業の質を低下させる恐れもあり、検討が必要となる。その際にはネパール側との共通認識も構築する必要がある。</p> <p>(5) 環境・森林保全活動へのさらなる展開のために、啓蒙普及活動等を通じ、事業を促進する必要がある。</p>
2. プロジェクトの実施体制	<p>(1) 日・ネ側投入については上述のとおり。</p> <p>(2) ネパール側の実施体制は厳しい予算の中で努力している。基本的にネ国の公務員の待遇及び行政サービスの質が問題であり、ネ国側が解決すべきことである。</p>
3. その他	<p>(1) PDMをベースに「サブプロジェクトのインパクト調査」が実施され、プロジェクトの効果を測定するのに有効であった。今後引き続き同様調査による住民エンパワーメントの評価手法を検討すべきである。</p>

12-15 ネパール側合同中間評価結果

(ネパール側スタッフによるもの)

Introduction of the Project

Overall Goal of the Project:

To improve the natural environment in the Nepal Hills through community resource development and conservation.

The purpose of the Joint Evaluation Mission to review the progress of the Community Development and Forest/Watershed Conservation project activities, its relevance to the stated objectives and its effectiveness in developing self-reliance of the villagers through promoting people's participation in the project area. The secondary purpose is to suggest interventions of approach to improve the effectiveness of project implementation in the remaining period and to recommend the necessary follow up action to conserve and sustain the achievement of the project.

The mission carried out its work from 18th June to 22 June from 1997 in Pokhara. During this period the mission undertook the following activities:

- i. introduction and detail briefing on the project by officials from DSCO Kaski and Parbat, JICA and JOCV
- ii. review of operational guidelines and progress reports.
- iii. detailed formal and informal interviews with field staff from DSCO, JOCV, NGO and villagers.
- iv. field visit to three 2 in Parbat and one in Kaski out of the 10 Project Sites in Kaski and Parbat.

Community Development and Forest/Watershed Conservation Project

Mid term Evaluation Report

1. Progress of Project Activities

The project has covered 90 wards in 10 model areas. The project completed 250 sub-projects related to physical development. The major focus has been found in infrastructure development. Besides from these, several non traditional agricultural activities were carried out to generate additional income of the local inhabitants in the ten model areas. 140 capability enhancing training were conducted to the local users to enable them participate in the project's activities in more efficient manner. The training focus is found on the field of traditional agricultural practices which links with the income generating activities of the project. The improved stoves construction and maintenance training were conducted to encourage people install these fuel efficient stoves so that the pressure on the forest is reduced to some extent leading towards decreasing the forest degradation rates. A women at Thapathana, using improves stoves as well as local resource person of the stove training, told the team that these stoves saves up to 40% of the fire wood when compared with the traditional stoves. Local people were also trained on toilet construction and other related sanitation matters.

2.1 Efficiency of the Project

The M/P teams consisting of JOCV local volunteers and the DSCO mid level technicians delivered services to the local inhabitants mostly as scheduled. The limited number of DSCO mid level technicians having technical expertise only on the field of small scale soil conservation and watershed management activities could not cope with the versatile demands of the local inhabitants. This did cause delay in implementation of some of the sub-projects, however, project managed to narrow down the gaps between the demands and the service with the help of TOLI hired professionals.

All sub-projects expenditure were shared between the project and the users. The project contributed cash and commodity. Users mainly contributed unskilled labor. They occasionally contributed cash mainly on income generating activities, however, people's contribution has been recorded in one of the water supply sub-project and one toilet construction activity.

The operational guidelines of the project envisages phasing out of the target ward in the 4th year of the project's innovation, however, because of the participatory nature of the project and considerable time requirement from the people side preparing themselves to take self initiatives, three years time is found not sufficient for complete phasing out.

2.2 Effectiveness

Local people organizing themselves into working community for enhancing self-help initiatives have been found taking momentum. Special attentions were given to assure the active participation of the weaker sector of the society such as women and underprivileged. The income generation activities and infrastructure development activities are expected to contribute towards upliftment of the standard living, study is required to quantitative verification.

The project has adopted demand driven approach. The villages in the model areas devoid of minimum infrastructure facilities, therefore, infrastructure development sub-projects came in their high priority. Completion of several infrastructure development sub-project have helped attaining the objectives pertaining to community development but the linkages with forest watershed conservation are debatable.

The project, no doubt, tried to integrate conservation in development but more time is required for the people to respond positively. Intensive efforts of the M/P teams in disseminating projects objectives at the local level impacted gradual change of the sub-project demand pattern. Their demands are gradually inclining towards forest watershed conservation instead of just infrastructure development.

2.3 Rationale

The participatory approach adopted by the project helps farmers to take collective initiatives in community development and natural resource conservation. The project model guided by the operational guidelines is generally good. The operational guidelines categorized sub-projects into infrastructure development, forest watershed conservation and income generation in order to channel the project subsidy in a justified manner to achieve the objectives. Even though the domination of infrastructure development sub-projects indicates the need to redefine the detail activities under these main categories in order to accommodate more activities in the field of forest watershed conservation.

M/P teams are the key to project success. Project strongly aids the need to strengthen them. Good communication and team spirit leads project towards success even in situation with several other constraints. The M/P team members are committed to contribute in achieving the project objectives, communication in the team is not completely free from problem. The problem may have come because of the language and cultural differences. All members require to make additional efforts to understand each other and generate a feeling of co-workership to work in a coherent team.

2.4 Sustainability

M/P teams are the front line unit of the project. The M/P teams in the model area work as a bridge between project and the villagers in effectively deliberation of the services towards achieving the project objectives. Stationing M/P teams at the field involves input in personnel and financial matters, which have been mostly met by the Japanese assistance. The fund at the disposal of the M/P team are not abided by the government's fiscal year policy provides adequate flexibility to carry over the funds to the next year. With drawl of the Japanese assistance immediately jeopardize both the above opportunities hampering promotion of this process oriented development initiatives.

2.5 Impact

It's probably too early to be able to record significant impact of the project. Because of the tight schedule, people's feeling couldn't be internalize by the team.

3. Recommendations

3.1. In order to cover spatial area to the reasonable extent so that the project's objectives of forest watershed conservation in Kaski-Parbat districts are met within the remaining periods of the project, following alternative actions are recommended.

- a. Increase the number of M/P teams
- b. Increase the involvement of NGO and assign more responsibilities.

3.2. The operational guidelines envisions the phasing out of the target wards after three years of intervention. The assumed phasing out period is short for the local community to take full responsibilities on their own, therefore, preparation of detail phasing out plan is recommended.

3.3 Increase integration of structural activities and greenery activities.

3.4 More time and efforts be made to disseminate the projects activities to the target wards so that their demands come closer to achieve forest watershed conservation objectives.

3.5 Project finds mechanism for all M/P team members to make additional efforts to understand each other and generate a feeling of co-workership to work in a coherent team.

12-16 協力対象地区（モデルエリア） ・

Wardの現況

モデルエリアの現況

地区名	森林	(%)	灌木地	(%)	草地	(%)	畑地	(%)	水田	(%)	合計
カスキ北	7,726	54.6	269	19.0	844	6.0	2,060	14.5	3,263	23.0	14,161
カスキ東	3,040	55.6	3	0.1	27	0.5	1,453	26.6	949	17.3	5,472
カスキ西	5,373	54.3	48	0.5	405	4.1	2,317	23.4	1,744	17.6	9,887
バルバット北	2,225	28.3	82	1.0	446	5.7	3,570	45.4	1,537	19.6	7,860
バルバット南	519	13.7	97	2.6	691	18.2	2,146	56.5	342	9.0	3,795
計	18,883	45.9	499	1.2	2,413	5.9	11,547	28.0	7,835	19.0	41,176

モデル・エリア全体では、314人/1万㎡であり、平均家族数は6.2人である。人口増加率は1.2%前後。1世帯当たりの耕地面積は水田0.29ha、畑地0.15ha計0.46haである。

90 区の現況

90wardsにおける世帯数及び人口データの比較

		1991 Census		JICA (1994/95)		Baseline Survey	
		H.H.	Pop.	H.H.	Pop.	H.H.	Pop.
Total		6,263	31,948	6,584	39,640	6,164	39,176
Mean		70	355	73	440	68	435
Max.		164	846	160	1,500	180	1,159
Min.		21	97	24	154	17	141
Arba Vijaya	Ward-1	126	653	107	653	100	631
	Ward-2	125	582	70	576	80	392
	Ward-3	53	260	44	259	53	322
	Ward-4	77	326	55	341	74	377
	Ward-5	79	361	95	362	79	430
	Ward-6	113	560	121	560	111	630
	Ward-7	50	239	57	329	48	377
	Ward-8	60	299	70	329	65	351
	Ward-9	31	166	33	166	28	173
Chapakot	Ward-1	39	197	42	254	39	288
	Ward-2	43	229	43	261	48	500
	Ward-3	109	569	125	690	133	730
	Ward-4	21	114	25	164	33	189
	Ward-5	33	171	32	185	34	180
	Ward-6	98	479	101	511	96	610
	Ward-7	122	652	115	762	121	602
	Ward-8	47	256	42	263	46	278
	Ward-9	62	299	59	326	60	494
Deurali	Ward-1	61	267	60	334	47	448
	Ward-2	118	589	141	748	125	780
	Ward-3	92	418	99	555	87	527
	Ward-4	49	231	54	316	59	306
	Ward-5	75	354	76	386	70	484
	Ward-6	50	247	53	299	48	287
	Ward-7	40	187	35	224	37	247
	Ward-8	48	206	55	303	47	289
	Ward-9	75	343	78	402	70	347
Kristinachnechaur	Ward-1	93	441	83	541	86	528
	Ward-2	154	791	129	794	158	1,007
	Ward-3	164	774	155	920	159	1,050
	Ward-4	164	846	160	1,041	180	1,159
	Ward-5	99	544	93	644	104	674
	Ward-6	71	335	69	438	83	450
	Ward-7	153	746	149	988	153	978
	Ward-8	162	820	67	489	81	461
	Ward-9	85	460	111	720	104	707
Mauja	Ward-1	109	557	100	654	88	626
	Ward-2	22	105	27	176	19	141
	Ward-3	25	122	28	165	27	171
	Ward-4	106	516	111	726	104	535
	Ward-5	66	286	63	430	65	204
	Ward-6	50	266	50	207	44	408
	Ward-7	65	312	78	439	68	415
	Ward-8	21	97	24	166	17	212
	Ward-9	22	122	25	178	21	204

		1991 Census		JICA (1994/95)		Baseline Survey		
		H.H.	Pop.	H.H.	Pop.	H.H.	Pop.	
Purunchaur	Ward-1	93	437	135	635	110	641	
	Ward-2	96	431	112	465	104	500	
	Ward-3	85	492	131	559	82	566	
	Ward-4	46	234	73	303	48	287	
	Ward-5	91	438	111	494	82	383	
	Ward-6	93	486	117	499	107	632	
	Ward-7	61	313	88	360	62	355	
	Ward-8	38	195	47	154	42	278	
	Ward-9	73	344	106	422	74	423	
Thuli Pokhari	Ward-1	63	255	68	400	68	400	
	Ward-2	62	322	65	450	75	450	
	Ward-3	91	511	99	820	105	820	
	Ward-4	74	338	79	605	79	625	
	Ward-5	42	199	42	294	42	294	
	Ward-6	71	348	77	400	80	400	
	Ward-7	55	263	63	350	65	350	
	Ward-9	54	297	65	600	53	600	
	Ward-5	47	215	64	448	47	235	
Khaula Lankuri	Ward-1	74	397	80	400	83	550	
	Ward-2	44	276	45	300	48	400	
	Ward-3	55	245	60	350	50	350	
	Ward-4	43	208	55	300	37	250	
	Ward-5	25	125	30	245	25	200	
	Ward-6	48	247	65	360	46	451	
	Ward-7	57	314	75	460	50	412	
	Ward-8	44	250	72	400	43	278	
	Ward-9	31	180	48	290	35	350	
Thana Maulo	Ward-9	36	222	48	497	38	263	
Tribeni	Ward-1	55	435	55	435	52	310	
	Ward-2	47	293	47	293	46	260	
	Ward-3	45	193	45	193	28	210	
	Ward-4	43	310	43	310	46	200	
	Ward-7	45	360	45	360	40	280	
	Ward-8	43	278	43	278	31	235	
	Ward-9	38	190	38	190	35	203	
	Baulibas	Ward-9	90	650	90	650	78	455
	Thapathana	Ward-1	79	396	83	575	82	526
Ward-2		78	408	82	506	69	506	
Ward-3		45	260	50	305	41	280	
Ward-4		49	228	46	350	48	322	
Ward-5		56	287	55	362	53	294	
Ward-6		39	204	42	200	35	268	
Ward-7		151	786	153	1,500	153	921	
Ward-8		78	376	71	497	80	550	
Ward-9		63	318	67	502	68	414	

90 wardsにおける農地所有及び穀物充足の状況

VDC	Ward	Farm Land Owned (ha/HH)			Sufficiency of cereals produced (% of HH)			Ave. cereal deficit months per year
		Khet	Bari	Total	More than enough	Just enough	Not enough	
Mean		0.31	0.18	0.49	6	23	70	4.2
Max.		0.63	0.49	1.05	42	68	100	8.0
Min		0.09	0.05	0.18	0	0	26	1.4
Arba Vijaya	Ward-1	0.28	0.16	0.44	8	25	68	4.2
	Ward-2	0.44	0.09	0.53	13	34	53	3.5
	Ward-3	0.45	0.14	0.59	20	50	30	1.9
	Ward-4	0.24	0.12	0.36	23	37	40	3.1
	Ward-5	0.43	0.18	0.60	16	29	55	3.7
	Ward-6	0.19	0.14	0.32	8	8	84	6.2
	Ward-7	0.32	0.15	0.48	6	22	72	4.7
	Ward-8	0.11	0.09	0.20	0	3	97	8.0
	Ward-9	0.22	0.19	0.41	0	0	100	6.3
Chapakot	Ward-1	0.38	0.20	0.58	20	7	73	5.5
	Ward-2	0.35	0.22	0.57	21	21	58	4.7
	Ward-3	0.42	0.18	0.60	4	18	78	6.1
	Ward-4	0.52	0.17	0.68	8	31	62	4.2
	Ward-5	0.13	0.14	0.27	0	6	94	7.3
	Ward-6	0.41	0.17	0.58	10	24	66	4.9
	Ward-7	0.43	0.16	0.59	11	15	74	4.5
	Ward-8	0.27	0.20	0.46	10	15	75	4.5
	Ward-9	0.52	0.15	0.67	11	15	74	4.3
Deulali	Ward-1	0.32	0.19	0.51	5	30	65	3.1
	Ward-2	0.35	0.25	0.61	14	22	65	3.4
	Ward-3	0.20	0.16	0.36	0	11	89	6.2
	Ward-4	0.26	0.16	0.42	0	24	76	5.7
	Ward-5	0.26	0.23	0.49	0	12	88	5.3
	Ward-6	0.22	0.24	0.46	0	20	80	5.2
	Ward-7	0.32	0.25	0.57	20	27	53	3.0
	Ward-8	0.12	0.23	0.36	0	0	100	6.6
	Ward-9	0.27	0.18	0.45	10	10	80	5.6
Kristinachnechaur	Ward-1	0.26	0.15	0.41	3	14	83	5.0
	Ward-2	0.30	0.15	0.45	1	24	75	4.9
	Ward-3	0.24	0.17	0.41	6	17	77	5.5
	Ward-4	0.28	0.15	0.43	7	16	78	5.8
	Ward-5	0.28	0.16	0.43	2	14	84	4.8
	Ward-6	0.17	0.13	0.30	3	3	94	6.5
	Ward-7	0.25	0.15	0.41	5	19	76	5.1
	Ward-8	0.14	0.14	0.28	0	9	91	6.3
	Ward-9	0.15	0.13	0.28	0	19	81	5.5
Mauja	Ward-1	0.36	0.15	0.51	0	28	72	4.4
	Ward-2	0.36	0.13	0.49	0	50	50	4.2
	Ward-3	0.26	0.10	0.35	9	27	64	4.5
	Ward-4	0.20	0.17	0.37	0	26	74	6.2
	Ward-5	0.41	0.14	0.55	8	46	46	3.4
	Ward-6	0.24	0.10	0.34	0	61	39	2.8
	Ward-7	0.40	0.14	0.54	4	18	79	5.6
	Ward-8	0.41	0.17	0.58	0	20	80	4.3
	Ward-9	0.40	0.16	0.56	0	10	90	5.1
Puranchaur	Ward-1	0.24	0.18	0.42	9	20	70	4.7
	Ward-2	0.35	0.10	0.45	29	10	61	4.1
	Ward-3	0.31	0.25	0.57	13	16	72	4.1
	Ward-4	0.45	0.28	0.73	42	16	42	2.1
	Ward-5	0.38	0.13	0.51	22	25	53	2.7
	Ward-6	0.61	0.07	0.68	33	26	40	2.1
	Ward-7	0.36	0.11	0.47	16	16	68	5.3
	Ward-8	0.09	0.09	0.18	0	0	100	7.4
	Ward-9	0.34	0.14	0.48	17	24	59	3.9

90 wardsにおける農地所有及び穀物充足の状況

VDC	Ward	Farm Land Owned (ha/HH)			Sufficiency of cereals produced (% of HH)			Ave. cereal deficit months per year
		Khet	Bari	Total	More than enough	Just enough	Not enough	
Thuli Pokhari	Ward-1	0.63	0.18	0.81	5	68	26	1.4
	Ward-2	0.61	0.21	0.82	0	32	68	4.1
	Ward-3	0.34	0.22	0.56	0	25	75	2.7
	Ward-4	0.26	0.16	0.42	3	19	78	4.7
	Ward-5	0.51	0.17	0.68	0	36	64	4.0
	Ward-6	0.34	0.22	0.56	0	26	74	5.4
	Ward-7	0.38	0.31	0.69	0	13	87	5.3
	Ward-9	0.42	0.18	0.60	0	27	73	4.2
	Khaula Lankuri	Ward-5	0.30	0.15	0.46	3	31	66
Bhangara	Ward-1	0.41	0.33	0.74	4	26	70	2.8
	Ward-2	0.37	0.32	0.68	0	44	56	3.3
	Ward-3	0.29	0.26	0.55	6	11	83	3.2
	Ward-4	0.24	0.23	0.47	11	17	72	2.9
	Ward-5	0.55	0.49	1.05	17	42	42	1.4
	Ward-6	0.13	0.13	0.26	0	18	82	2.0
	Ward-7	0.35	0.29	0.65	0	27	73	3.4
	Ward-8	0.43	0.34	0.77	6	50	44	1.7
	Ward-9	0.43	0.29	0.72	8	31	62	2.5
Thana Maulo	Ward-9	0.27	0.22	0.49	0	33	67	4.0
Tribeni	Ward-1	0.20	0.15	0.36	0	25	75	5.1
	Ward-2	0.22	0.15	0.37	0	17	83	3.6
	Ward-3	0.27	0.15	0.43	0	50	50	2.4
	Ward-4	0.24	0.11	0.36	0	42	58	2.9
	Ward-5	0.11	0.18	0.30	0	47	53	2.7
	Ward-6	0.12	0.15	0.27	0	17	83	3.6
	Ward-7	0.14	0.13	0.27	0	6	94	5.9
	Ward-8	0.18	0.29	0.47	0	29	65	4.0
	Ward-9	0.12	0.08	0.20	0	14	86	5.6
Baulibas	Ward-9	0.16	0.05	0.21	8	8	85	7.7
Thapatana	Ward-1	0.24	0.17	0.41	3	18	79	3.6
	Ward-2	0.19	0.19	0.39	0	13	88	4.5
	Ward-3	0.30	0.22	0.53	5	26	68	2.8
	Ward-4	0.22	0.13	0.36	0	24	76	3.5
	Ward-5	0.36	0.19	0.55	5	27	68	3.2
	Ward-6	0.32	0.30	0.62	6	38	56	1.9
	Ward-7	0.34	0.16	0.50	3	34	63	2.7
	Ward-8	0.33	0.16	0.49	0	33	67	2.9
	Ward-9	0.30	0.19	0.49	4	22	74	2.7

90 wardsにおける村落共有林及び個人所有林の状況

VDC	Ward	Member of FUG (HH%)	Private Forest		No. of Trees Privately Owned (ave. nos.)			
			Owner HH (%)	Ave. area (ha/owner HH)	Total	For fodder	For fuelwood	For timber
Mean		51.4	20	0.14	63	14	39	10
Max.		100.0	71	0.46	189	56	138	54
Min		0.0	0	0.00	3	2	0	0
Arba Vijaya	Ward-1	53	3	0.25	27	13	12	2
	Ward-2	6	25	0.18	58	9	32	16
	Ward-3	35	35	0.19	140	13	109	18
	Ward-4	53	27	0.16	45	12	31	2
	Ward-5	45	0	0.00	56	16	36	3
	Ward-6	78	2	0.20	49	20	26	2
	Ward-7	83	0	0.00	12	3	8	0
	Ward-8	93	0	0.00	10	2	7	0
	Ward-9	69	0	0.00	20	11	8	1
Chapakot	Ward-1	100	33	0.24	158	19	106	32
	Ward-2	100	16	0.18	189	15	138	37
	Ward-3	86	32	0.25	131	26	89	17
	Ward-4	92	31	0.10	110	26	55	29
	Ward-5	100	13	0.08	24	7	15	2
	Ward-6	95	2	0.10	64	19	36	9
	Ward-7	96	19	0.12	117	25	79	14
	Ward-8	100	20	0.08	69	33	32	4
	Ward-9	96	22	0.15	169	55	102	12
Deulali	Ward-1	100	10	0.08	39	23	13	3
	Ward-2	88	18	0.12	59	11	40	8
	Ward-3	26	14	0.14	40	8	27	5
	Ward-4	96	36	0.09	71	9	42	21
	Ward-5	0	8	0.09	18	6	9	3
	Ward-6	95	15	0.14	42	10	27	5
	Ward-7	93	27	0.30	177	16	107	54
	Ward-8	100	33	0.14	63	7	42	14
	Ward-9	20	20	0.12	40	7	28	4
Kristinachnechaur	Ward-1	97	3	0.05	35	9	25	1
	Ward-2	31	6	0.24	80	14	60	6
	Ward-3	70	8	0.15	59	10	46	3
	Ward-4	97	13	0.24	61	8	50	3
	Ward-5	56	9	0.11	36	17	19	1
	Ward-6	100	0	0.00	30	13	16	1
	Ward-7	77	5	0.38	60	10	40	9
	Ward-8	0	6	0.26	31	16	14	0
	Ward-9	55	0	0.00	27	9	17	0
Mauja	Ward-1	53	28	0.08	39	11	28	0
	Ward-2	30	10	0.15	19	7	11	1
	Ward-3	73	18	0.10	23	11	12	0
	Ward-4	98	5	0.28	35	5	29	1
	Ward-5	15	46	0.17	83	23	59	2
	Ward-6	100	11	0.05	15	11	4	0
	Ward-7	71	36	0.37	144	45	87	12
	Ward-8	40	40	0.11	52	13	32	8
	Ward-9	60	60	0.13	88	14	64	9
Puranchaur	Ward-1	68	20	0.21	72	11	50	11
	Ward-2	59	15	0.09	38	14	20	4
	Ward-3	94	19	0.21	44	16	26	2
	Ward-4	74	32	0.46	147	32	104	11
	Ward-5	41	13	0.13	33	12	18	3
	Ward-6	74	7	0.06	50	29	14	8
	Ward-7	40	12	0.23	69	20	19	30
	Ward-8	90	0	0.00	3	3	0	0
	Ward-9	83	24	0.17	59	8	45	5

90 wardsにおける村落共有林及び個人所有林の状況

VDC	Ward	Member of FUG (HH%)	Private Forest		No. of Trees Privately Owned (ave. nos.)			
			Owner HH (%)	Ave. area (ha / owner HH)	Total	For fodder	For fuelwood	For timber
Thuli Pokhari	Ward-1	42.1	0	0.00	33	3	21	8
	Ward-2	15.8	5	0.20	47	6	28	14
	Ward-3	28.1	3	0.05	27	4	16	7
	Ward-4	33.3	17	0.11	52	4	36	12
	Ward-5	7.1	7	0.25	70	4	41	25
	Ward-6	37.2	9	0.09	51	2	28	21
	Ward-7	33.3	40	0.13	112	8	88	16
	Ward-9	15.4	15	0.21	77	5	57	15
	Khaula Lankuri	Ward-5	9.4	0	0.00	11	3	6
Bhangara	Ward-1	39.1	35	0.09	54	7	41	7
	Ward-2	33.3	28	0.26	46	9	31	6
	Ward-3	38.9	17	0.19	78	13	57	9
	Ward-4	38.9	17	0.09	54	23	23	9
	Ward-5	41.7	25	0.33	60	16	37	6
	Ward-6	63.6	9	0.10	26	8	11	7
	Ward-7	19.2	42	0.26	96	20	55	21
	Ward-8	33.3	50	0.19	112	8	91	13
	Ward-9	53.9	38	0.20	45	15	19	10
Thana Maulo	Ward-9	61.9	29	0.13	23	6	9	8
Tribeni	Ward-1	0.0	38	0.06	76	28	38	10
	Ward-2	0.0	17	0.10	49	17	25	7
	Ward-3	0.0	56	0.09	184	56	101	27
	Ward-4	0.0	42	0.06	102	18	72	12
	Ward-5	0.0	47	0.09	68	30	34	5
	Ward-6	0.0	33	0.17	114	26	82	6
	Ward-7	0.0	6	0.05	45	20	24	2
	Ward-8	29.4	71	0.12	188	51	128	9
	Ward-9	0.0	29	0.06	58	24	31	4
Baulibas	Ward-9	15.0	8	0.22	36	15	9	12
Thapatana	Ward-1	30.3	21	0.14	39	7	18	14
	Ward-2	34.4	16	0.10	17	5	5	7
	Ward-3	31.6	42	0.09	28	5	11	12
	Ward-4	36.0	12	0.03	20	7	6	7
	Ward-5	27.3	59	0.13	122	9	60	53
	Ward-6	25.0	44	0.15	44	11	29	5
	Ward-7	32.2	37	0.09	57	8	25	24
	Ward-8	48.2	4	0.05	14	5	7	3
	Ward-9	26.1	13	0.07	18	5	8	4

90 wardsにおける家畜所有及び飼料充足状況

VDC	Ward	Average Livestock Population (head/HH)				Feed Sufficiency (% of HH responded)							
		Cow	Buffalo	Goat	Chicken	Dry Season				Wet Season			
						Sufficient	Just enough	Short	Very short	Sufficient	Just enough	Short	Very short
Mean		1.2	2.1	1.5	3.6	7	52	38	3	18	51	28	3
Max.		3.1	3.6	4.5	15.7	28	87	76	22	59	90	67	31
Min		0.2	1.0	0.1	0.0	0	8	6	0	0	21	0	0
Arba Vijaya	Ward-1	1.4	2.6	1.6	2.4	0	46	51	3	8	43	47	2
	Ward-2	0.6	1.6	0.9	15.6	5	55	38	2	12	36	45	7
	Ward-3	0.7	2.0	1.0	0.0	3	59	38	0	13	52	35	0
	Ward-4	0.7	2.0	0.6	0.8	0	63	35	2	9	59	33	0
	Ward-5	1.6	2.0	1.8	1.0	0	52	43	4	1	67	31	0
	Ward-6	0.5	2.1	2.0	4.6	2	44	43	11	6	45	49	0
	Ward-7	1.2	1.6	0.1	1.4	0	24	76	0	0	41	59	0
	Ward-8	0.5	1.3	0.5	3.2	0	14	69	17	2	26	67	5
	Ward-9	1.0	1.6	0.2	15.7	0	24	76	0	0	57	43	0
Chapakot	Ward-1	3.1	1.3	1.6	5.7	24	38	34	3	21	55	17	7
	Ward-2	3.1	1.2	2.6	4.8	14	48	19	19	21	48	10	21
	Ward-3	1.1	1.7	1.8	3.8	11	44	37	9	23	48	23	6
	Ward-4	1.1	2.9	1.4	0.6	10	60	23	7	13	60	27	0
	Ward-5	0.5	1.3	1.4	6.9	0	28	56	16	16	24	36	24
	Ward-6	0.7	2.2	1.0	1.3	17	31	42	10	14	49	29	8
	Ward-7	0.8	2.2	1.2	3.0	16	31	39	14	14	39	37	10
	Ward-8	1.1	2.0	2.4	5.9	2	63	29	5	12	54	32	2
	Ward-9	1.5	2.2	2.4	2.8	13	56	29	2	35	45	20	0
Deulali	Ward-1	2.1	2.5	2.2	1.9	11	47	42	0	13	58	29	0
	Ward-2	1.4	2.3	1.9	4.2	11	52	32	4	23	61	9	6
	Ward-3	1.0	1.8	1.7	5.5	3	43	51	3	8	57	28	7
	Ward-4	0.6	2.2	2.1	3.8	9	52	23	16	20	52	23	5
	Ward-5	1.7	2.3	3.0	3.8	14	21	54	11	19	42	30	9
	Ward-6	1.3	1.7	2.0	6.3	5	48	32	16	23	39	39	0
	Ward-7	2.3	2.1	4.5	3.3	22	36	31	11	26	43	29	3
	Ward-8	0.7	1.1	3.0	7.2	5	38	41	15	18	44	31	8
	Ward-9	1.6	1.7	2.4	5.0	0	51	36	13	15	40	44	2
Kristinachnechaur	Ward-1	1.5	2.2	1.2	2.3	0	37	63	0	0	42	58	0
	Ward-2	1.2	2.7	2.0	0.5	0	59	41	0	0	53	47	0
	Ward-3	0.9	1.8	1.7	2.9	0	52	48	0	2	55	43	0
	Ward-4	1.2	1.5	1.6	1.7	1	55	44	0	3	53	44	0
	Ward-5	2.0	2.3	2.9	5.8	0	49	51	0	2	59	37	3
	Ward-6	1.3	1.7	1.9	3.2	0	34	66	0	0	54	44	1
	Ward-7	1.1	1.8	1.8	2.8	0	56	39	5	4	59	36	1
	Ward-8	0.9	1.3	1.4	2.3	0	48	45	6	0	61	29	10
	Ward-9	0.9	2.2	0.9	1.6	0	41	59	0	0	57	43	0
Mauja	Ward-1	1.1	2.8	1.9	6.6	6	71	22	2	2	55	42	2
	Ward-2	0.7	2.2	2.4	10.9	12	82	6	0	0	71	29	0
	Ward-3	0.9	2.4	0.9	4.7	11	61	28	0	0	72	28	0
	Ward-4	0.9	2.4	2.4	9.3	3	67	30	0	0	63	34	3
	Ward-5	1.1	2.0	2.0	5.5	7	79	14	0	0	85	10	5
	Ward-6	1.5	1.9	1.1	8.3	0	87	13	0	0	90	10	0
	Ward-7	1.0	1.9	1.2	2.8	19	45	35	0	0	82	18	0
	Ward-8	0.8	1.9	3.6	8.8	5	74	21	0	0	84	16	0
	Ward-9	1.8	2.3	1.2	7.2	10	75	15	0	5	60	35	0
Puranchaur	Ward-1	2.1	1.6	2.2	1.5	10	54	36	0	35	46	19	0
	Ward-2	0.9	1.9	1.5	0.4	4	53	43	0	32	36	32	0
	Ward-3	0.9	2.5	1.6	0.4	4	39	57	0	39	51	10	0
	Ward-4	0.7	1.7	1.4	6.8	9	54	37	0	17	66	17	0
	Ward-5	1.3	1.8	1.6	0.1	5	49	46	0	29	26	45	0
	Ward-6	1.7	1.7	1.5	0.9	10	46	44	0	29	47	24	0
	Ward-7	1.3	1.5	1.9	1.0	4	49	47	0	33	43	24	0
	Ward-8	0.2	1.0	1.1	0.4	7	24	69	0	39	25	36	0
	Ward-9	1.2	1.5	0.6	7.0	2	68	30	0	36	43	20	0

90 wardsにおける家畜所有及び飼料充足状況

VDC	Ward	Average Livestock Population (head/HH)				Feed Sufficiency (% of HH responded)							
		Cow	Buffalo	Goat	Chicken	Dry Season				Wet Season			
						Sufficient	Just enough	Short	Very short	Sufficient	Just enough	Short	Very short
Thuli Pokhari	Ward-1	0.7	1.9	0.8	0.0	5	69	21	5	21	46	33	0
	Ward-2	1.1	1.7	0.6	0.4	16	63	21	0	45	39	16	0
	Ward-3	0.8	1.9	0.8	2.0	0	49	51	0	19	61	19	0
	Ward-4	0.5	1.5	0.5	1.0	0	47	51	2	3	54	41	2
	Ward-5	1.3	1.9	1.3	1.1	15	49	36	0	31	36	33	0
	Ward-6	0.7	1.6	0.6	0.6	0	48	49	2	21	48	31	0
	Ward-7	1.3	1.7	0.8	0.9	0	32	68	0	12	59	29	0
	Ward-9	1.2	1.6	1.3	1.1	0	56	44	0	7	72	21	0
	Khaula Lankuri	Ward-5	0.8	1.9	1.1	0.1	4	32	63	0	6	46	44
Bhangara	Ward-1	1.5	3.3	3.4	4.9	5	71	24	0	59	41	0	0
	Ward-2	1.3	2.7	2.7	2.3	19	55	19	7	31	62	7	0
	Ward-3	1.1	2.6	2.1	3.3	10	76	14	0	47	53	0	0
	Ward-4	2.5	2.2	2.1	3.1	4	80	16	0	38	58	5	0
	Ward-5	1.3	3.5	1.5	1.0	17	57	27	0	23	50	19	8
	Ward-6	0.6	1.6	0.6	3.3	17	72	11	0	26	68	6	0
	Ward-7	1.1	2.0	2.2	9.5	7	69	24	0	52	35	13	0
	Ward-8	1.1	3.6	1.9	0.0	2	64	28	6	35	59	0	7
	Ward-9	1.8	2.9	1.3	1.5	13	78	9	0	39	61	0	0
Thana Maulo	Ward-9	1.4	2.1	1.5	3.1	15	60	13	13	36	27	27	11
Tribeni	Ward-1	1.9	1.9	0.5	2.8	0	59	39	2	2	56	37	5
	Ward-2	2.3	2.8	0.6	6.3	0	61	39	0	3	58	39	0
	Ward-3	2.8	2.3	0.5	1.8	0	53	47	0	13	66	22	0
	Ward-4	1.7	2.5	0.2	0.8	0	47	53	0	0	68	32	0
	Ward-5	1.8	2.5	1.5	0.0	2	57	41	0	13	71	16	0
	Ward-6	1.3	2.7	0.7	5.0	0	39	50	11	0	36	64	0
	Ward-7	0.9	2.4	0.4	2.1	0	61	39	0	0	81	19	0
	Ward-8	2.4	2.9	2.8	7.4	0	58	43	0	23	72	5	0
	Ward-9	1.1	1.6	0.6	3.3	0	30	70	0	0	57	43	0
Baulibas	Ward-9	0.8	1.8	0.8	3.8	14	8	56	22	19	31	19	31
Thapatana	Ward-1	0.8	2.2	0.8	4.9	20	52	28	0	42	45	13	0
	Ward-2	0.8	2.0	0.8	4.8	15	53	32	0	47	30	21	2
	Ward-3	0.8	1.7	0.1	5.4	28	55	17	0	38	41	21	0
	Ward-4	0.6	1.7	1.0	0.6	16	48	36	0	47	44	9	0
	Ward-5	0.8	2.7	1.1	3.6	19	72	9	0	55	21	24	0
	Ward-6	1.1	2.1	1.6	0.4	22	54	24	0	36	42	22	0
	Ward-7	0.9	2.3	1.9	2.2	17	63	20	1	51	38	11	0
	Ward-8	1.2	2.1	1.0	3.5	6	74	19	1	44	37	19	0
	Ward-9	1.7	2.5	1.6	3.4	11	53	35	0	26	35	30	9

90 wardsにおける飲料水の状況 (1/2)

VDC	Ward	Source of Drinking Water (% of HH)						Walking Distance (return trip) to Source (min.)					
		Dry Season			Wet Season			Dry Season			Wet Season		
		Piped water	Spring water	River	Piped water	Spring water	River	Piped water	Spring water	River	Piped water	Spring water	River
Mean		64	32	3	71	26	2	16	30	12	13	21	6
Max.		100	95	26	100	92	22	56	74	65	42	71	84
Min		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Arba Vijaya	Ward-1	85	15	0	88	13	0	9	19	0	8	18	0
	Ward-2	88	13	0	97	0	0	4	31	0	4	0	0
	Ward-3	90	5	5	95	5	0	9	10	10	8	10	0
	Ward-4	100	0	0	93	7	0	10	0	0	10	4	0
	Ward-5	87	10	0	87	10	0	18	18	0	17	11	0
	Ward-6	100	0	0	100	0	0	17	0	0	16	0	0
	Ward-7	89	11	0	89	11	0	10	25	0	9	25	0
	Ward-8	67	33	0	100	0	0	20	53	0	15	0	0
	Ward-9	92	8	0	100	0	0	11	20	0	10	0	0
Chapakot	Ward-1	40	40	20	73	27	0	15	55	35	10	26	0
	Ward-2	79	16	5	100	0	0	14	30	35	11	0	0
	Ward-3	42	32	26	72	24	2	19	45	36	14	30	5
	Ward-4	54	45	0	100	0	0	9	33	0	10	0	0
	Ward-5	63	38	0	100	0	0	14	42	0	14	0	0
	Ward-6	56	41	0	90	7	0	9	34	0	10	8	0
	Ward-7	47	49	4	79	17	4	7	30	23	9	20	23
	Ward-8	80	20	0	95	5	0	15	28	0	15	30	0
	Ward-9	67	30	4	96	4	0	12	36	65	12	20	0
Deulahi	Ward-1	90	10	0	90	10	0	16	20	0	7	14	0
	Ward-2	75	25	0	75	25	0	24	34	0	26	26	0
	Ward-3	83	17	0	91	9	0	21	47	0	11	18	0
	Ward-4	88	12	0	88	12	0	13	32	0	8	10	0
	Ward-5	44	56	0	84	16	0	25	37	0	14	23	0
	Ward-6	45	55	0	55	45	0	26	31	0	16	20	0
	Ward-7	50	20	0	87	13	0	14	37	0	9	18	0
	Ward-8	90	10	0	71	29	0	56	45	0	36	21	0
	Ward-9	13	77	10	13	77	10	18	48	27	8	20	25
Kristinachnechaur	Ward-1	29	71	0	63	37	0	8	39	0	10	27	0
	Ward-2	30	70	0	63	37	0	17	43	0	9	50	0
	Ward-3	39	58	3	62	38	0	11	39	23	10	28	0
	Ward-4	46	53	1	75	25	0	13	33	30	11	22	0
	Ward-5	58	42	0	65	35	0	13	29	0	6	16	0
	Ward-6	46	54	0	77	23	0	17	34	0	10	23	0
	Ward-7	50	50	0	61	39	0	22	33	0	18	26	0
	Ward-8	88	12	0	97	3	0	11	40	0	9	20	0
	Ward-9	5	95	0	19	81	0	28	39	0	14	24	0
Mauja	Ward-1	69	31	0	69	31	0	10	21	0	7	20	0
	Ward-2	100	0	0	100	0	0	11	0	0	8	0	0
	Ward-3	100	0	0	100	0	0	12	0	0	9	0	0
	Ward-4	93	5	2	93	2	5	8	30	30	7	40	25
	Ward-5	69	31	0	69	31	0	10	10	0	7	10	0
	Ward-6	83	11	6	83	11	6	9	5	20	7	5	20
	Ward-7	96	4	0	93	7	0	10	30	0	7	18	0
	Ward-8	100	0	0	100	0	0	10	0	0	7	0	0
	Ward-9	100	0	0	100	0	0	11	0	0	9	0	0
Puranchaur	Ward-1	68	30	2	73	27	0	11	20	45	9	16	0
	Ward-2	95	2	2	100	0	0	8	30	30	8	0	0
	Ward-3	75	25	0	91	9	0	31	48	0	20	19	0
	Ward-4	47	47	5	100	0	0	18	29	25	13	0	0
	Ward-5	94	6	0	97	3	0	22	30	0	13	10	0
	Ward-6	81	7	12	83	2	12	18	40	30	13	20	36
	Ward-7	84	8	8	100	0	0	17	60	45	15	0	0
	Ward-8	71	14	14	100	0	0	30	60	50	20	0	0
	Ward-9	76	0	24	97	3	0	19	0	58	16	30	0

90 wardsにおける飲料水の状況 (1/2)

VDC	Ward	Source of Drinking Water (% of III)						Walking Distance (return trip) to Source (min.)					
		Dry Season			Wet Season			Dry Season			Wet Season		
		Piped water	Spring water	River	Piped water	Spring water	River	Piped water	Spring water	River	Piped water	Spring water	River
Tholi Pokhari	Ward-1	26	47	0	26	53	0	18	44	0	7	31	0
	Ward-2	26	58	5	32	58	0	45	38	45	42	32	0
	Ward-3	44	56	0	47	53	0	22	74	0	20	47	0
	Ward-4	64	28	0	67	25	0	28	41	0	21	32	0
	Ward-5	79	14	7	93	0	7	22	33	30	15	0	30
	Ward-6	40	47	0	60	26	0	32	43	0	13	31	0
	Ward-7	47	53	0	53	47	0	19	28	0	14	26	0
	Ward-9	35	62	0	35	62	0	21	46	0	17	43	0
Khaura Lankuri	Ward-5	28	66	0	31	63	0	11	33	0	11	23	0
Bhangara	Ward-1	83	13	4	52	48	0	18	18	60	17	13	0
	Ward-2	0	78	22	0	78	22	0	19	48	0	25	25
	Ward-3	72	28	0	72	28	0	7	17	0	6	10	0
	Ward-4	78	6	17	83	6	11	12	45	23	11	30	20
	Ward-5	8	92	0	8	92	0	10	32	0	15	17	0
	Ward-6	50	50	0	23	77	0	5	39	0	6	20	0
	Ward-7	69	31	0	65	35	0	17	50	0	10	49	0
	Ward-8	28	50	11	17	61	11	14	33	45	14	24	25
	Ward-9	54	46	0	31	62	8	17	28	0	10	17	15
Thana Maulo	Ward-9	90	0	0	86	5	0	17	0	0	13	45	0
Tribeni	Ward-1	88	13	0	88	13	0	9	28	0	7	28	0
	Ward-2	78	17	0	94	6	0	8	35	0	9	15	0
	Ward-3	63	31	6	75	19	6	10	22	30	9	17	30
	Ward-4	63	32	5	89	11	0	10	55	30	10	45	0
	Ward-5	95	0	5	95	0	5	8	0	40	8	0	40
	Ward-6	72	17	11	100	0	0	9	40	18	9	0	0
	Ward-7	24	71	6	29	65	6	6	34	15	6	35	15
	Ward-8	83	12	0	88	12	0	8	38	0	8	33	0
	Ward-9	93	7	0	93	7	0	7	10	0	7	10	0
Baulibas	Ward-9	33	68	0	20	68	13	18	39	0	32	71	84
Thapatana	Ward-1	67	21	12	64	36	0	15	27	51	16	23	0
	Ward-2	38	63	0	22	78	0	23	37	0	20	39	0
	Ward-3	95	5	0	84	16	0	13	30	0	18	50	0
	Ward-4	52	48	0	52	48	0	25	28	0	36	31	0
	Ward-5	64	36	0	50	45	0	13	13	0	14	24	0
	Ward-6	56	44	0	38	56	0	37	21	0	33	36	0
	Ward-7	25	61	8	19	66	8	35	30	26	39	44	29
	Ward-8	26	74	0	30	70	0	19	30	0	40	47	0
	Ward-9	22	70	4	22	65	13	21	28	15	11	39	63

90 wardsにおける飲料水の状況 (2/2)

VDC	Ward	Sufficiency of Drinking Water (% of HH)							
		Dry Season				Wet Season			
		Suffi- cient	Just enough	Short	Very short	Suffi- cient	Just enough	Short	Very short
Mean		20	43	31	6	39	43	15	3
Max.		56	95	76	57	100	100	59	38
Min		0	2	0	0	0	0	0	0
Arba Vijaya	Ward-1	18	58	23	3	20	73	8	0
	Ward-2	41	41	19	0	38	53	6	3
	Ward-3	0	95	5	0	0	100	0	0
	Ward-4	13	70	17	0	13	80	7	0
	Ward-5	6	55	39	0	6	81	13	0
	Ward-6	0	59	39	2	0	73	27	0
	Ward-7	0	83	17	0	6	83	11	0
	Ward-8	0	27	73	0	0	43	57	0
	Ward-9	0	62	38	0	0	69	31	0
Chapakot	Ward-1	7	27	60	7	60	27	13	0
	Ward-2	47	37	16	0	79	5	16	0
	Ward-3	26	42	28	4	46	32	16	6
	Ward-4	54	46	0	0	69	15	15	0
	Ward-5	56	31	13	0	69	13	6	13
	Ward-6	34	41	17	7	65	12	10	12
	Ward-7	47	40	13	0	72	17	11	0
	Ward-8	55	40	5	0	60	25	15	0
	Ward-9	41	44	15	0	52	30	19	0
Deulali	Ward-1	20	45	30	5	70	30	0	0
	Ward-2	2	41	41	16	35	25	20	20
	Ward-3	6	23	60	11	46	46	9	0
	Ward-4	4	72	20	4	64	36	0	0
	Ward-5	12	20	44	24	56	24	16	4
	Ward-6	10	65	20	5	75	25	0	0
	Ward-7	7	53	33	7	80	20	0	0
	Ward-8	0	29	33	38	62	38	0	0
	Ward-9	20	3	20	57	77	17	7	0
Kristinachnechaur	Ward-1	0	23	57	20	0	60	40	0
	Ward-2	0	15	51	34	0	52	46	1
	Ward-3	8	32	41	18	8	68	24	0
	Ward-4	1	47	50	1	1	93	5	0
	Ward-5	2	16	72	9	5	84	12	0
	Ward-6	0	11	60	29	3	57	40	0
	Ward-7	0	32	68	0	3	69	26	2
	Ward-8	0	53	44	3	3	91	6	0
	Ward-9	0	2	76	21	0	76	24	0
Mauja	Ward-1	42	31	28	0	64	36	0	0
	Ward-2	40	40	20	0	80	20	0	0
	Ward-3	18	36	45	0	73	27	0	0
	Ward-4	14	67	19	0	81	19	0	0
	Ward-5	15	54	31	0	62	38	0	0
	Ward-6	39	44	17	0	100	0	0	0
	Ward-7	36	25	39	0	61	39	0	0
	Ward-8	30	40	30	0	80	20	0	0
	Ward-9	40	40	20	0	80	20	0	0
Puranchaur	Ward-1	16	45	39	0	18	59	20	2
	Ward-2	56	41	0	2	76	24	0	0
	Ward-3	0	25	75	0	16	59	25	0
	Ward-4	21	42	37	0	5	74	21	0
	Ward-5	6	22	63	9	9	78	13	0
	Ward-6	26	43	31	0	45	31	21	2
	Ward-7	16	40	40	4	20	52	28	0
	Ward-8	14	48	38	0	14	57	29	0
	Ward-9	21	66	14	0	10	79	10	0

90 wardsにおける飲料水の状況 (2/2)

VDC	Ward	Sufficiency of Drinking Water (% of HH)							
		Dry Season				Wet Season			
		Suffi- cient	Just enough	Short	Very short	Suffi- cient	Just enough	Short	Very short
Thuli Pokhari	Ward-1	5	47	47	0	32	68	0	0
	Ward-2	32	26	42	0	42	53	5	0
	Ward-3	0	34	34	31	22	53	19	6
	Ward-4	3	33	61	3	33	58	8	0
	Ward-5	0	57	36	7	43	50	7	0
	Ward-6	0	35	56	9	40	53	7	0
	Ward-7	20	33	47	0	27	67	7	0
	Ward-9	15	8	65	12	23	65	12	0
	Ward-5	25	41	31	3	38	53	6	3
Khaula Lankuri	Ward-1	9	43	39	9	48	0	39	13
	Ward-2	28	22	17	33	61	6	28	6
	Ward-3	33	50	17	0	56	33	11	0
	Ward-4	28	50	17	6	39	33	22	6
	Ward-5	50	17	17	17	67	8	8	17
	Ward-6	18	55	23	5	45	18	18	18
	Ward-7	23	31	23	23	38	38	15	8
	Ward-8	33	39	17	11	44	17	22	17
	Ward-9	15	38	23	23	54	31	8	8
Thana Maulo	Ward-9	0	48	48	5	29	43	24	5
Tribeni	Ward-1	29	42	29	0	33	54	13	0
	Ward-2	33	28	39	0	33	22	44	0
	Ward-3	50	44	6	0	31	63	6	0
	Ward-4	32	58	11	0	16	74	11	0
	Ward-5	26	42	32	0	42	53	5	0
	Ward-6	50	28	22	0	33	61	6	0
	Ward-7	24	47	29	0	29	65	6	0
	Ward-8	18	76	6	0	24	76	0	0
	Ward-9	21	71	7	0	43	57	0	0
Baulibas	Ward-9	15	55	30	0	18	10	35	38
Thapatana	Ward-1	27	52	21	0	48	39	12	0
	Ward-2	25	47	22	6	50	28	19	3
	Ward-3	16	74	5	5	42	11	42	5
	Ward-4	16	68	12	4	40	20	36	4
	Ward-5	45	50	0	5	50	18	32	0
	Ward-6	13	63	19	6	19	44	38	0
	Ward-7	37	39	24	0	37	25	34	3
	Ward-8	44	52	4	0	11	19	59	11
	Ward-9	26	52	17	4	48	13	35	4

